

昭和 44 年 度

# 地力保全基本調査成績書

〔日高北部内陸地域 平取町〕



北海道立中央農業試験場



## 序

現状における土地生産力は諸種の土壌的阻害要因によつて十分にその地力を発揚できない場合が少なくないのみならず、一方では剝脱要因もあつてその地力は消耗低下しつゝある。したがつてこれら阻害要因を排除して合理的かつ適切な地力保全の対策を推進し、もつて当面の農業構造改善の基盤整備に資するため、昭和34年より農林省農政局の助成を得て基本的土壌調査分類を実施している。

本調査成績書は昭和44年に行つた12地域、16市町村をとりまとめたもので、こゝにこれを公表し営農安定の資に供する次第である。

現地調査の遂行に際して御協力を得た関係市町村、農業協同組合ならびに農業改良普及所の関係各位に対して、深く感謝の意を表す。

昭和45年3月

北海道立中央農業試験場長

和田忠雄

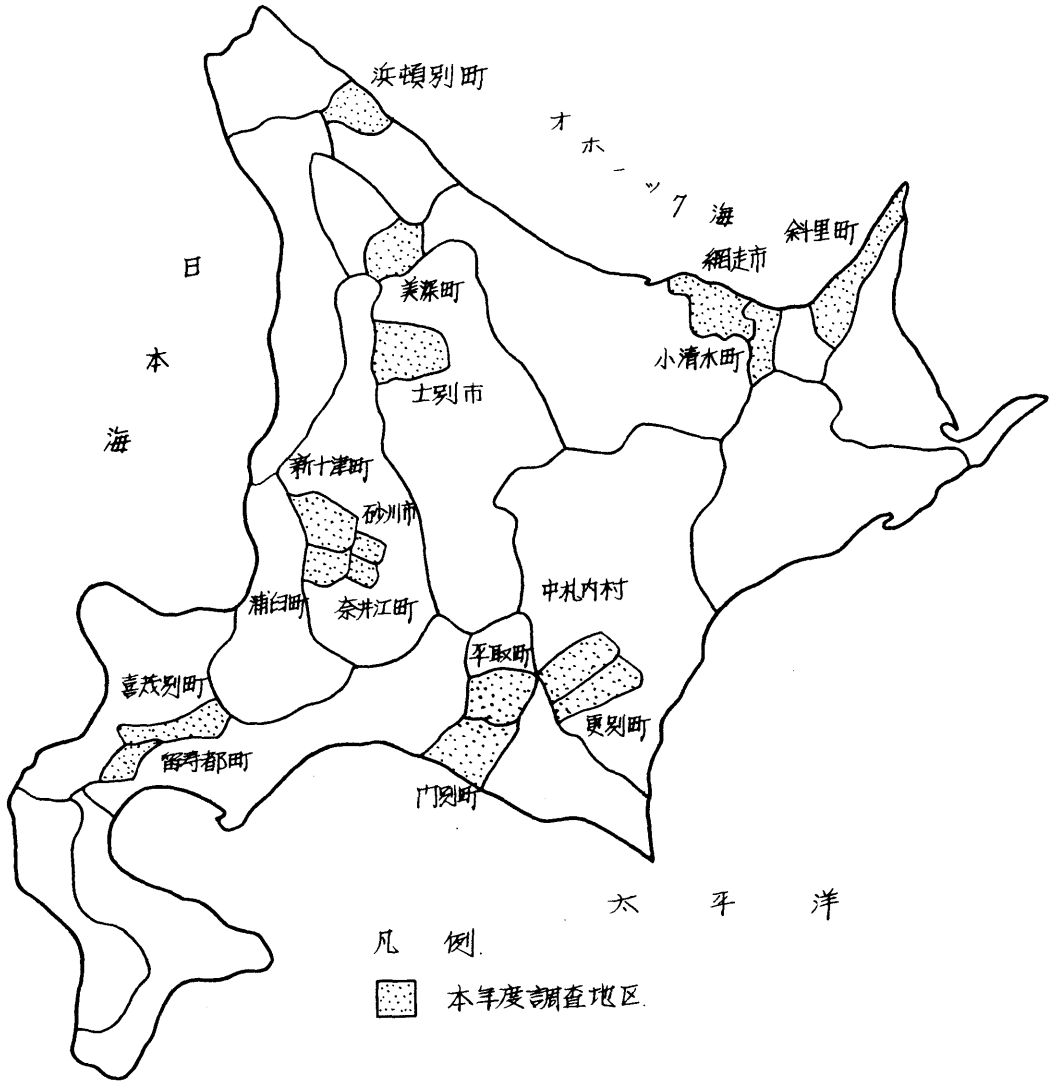


調査地域一覧

(ha)

調査地域名	該当郡市町村名	農地面積 (調査対象面積)		概調査面積		本年度調査面積	
		水田	畑	水田	畑	水田	畑
樺戸	新十津川町	4,949 <sup>ha</sup>	1,256 <sup>ha</sup>	— <sup>ha</sup>	— <sup>ha</sup>	4,949 <sup>ha</sup>	1,256 <sup>ha</sup>
石狩川下流	浦臼町	2,002	1,141	—	—	2,002	1,141
空知中部	奈井江町	2,216	492	—	—	2,216	492
"	砂川市	1,344	1,036	—	—	1,344	1,036
羊蹄山麓	留寿都町	60	2,675	—	—	—	2,675
"	喜茂別町	232	2,003	—	—	232	2,003
日高北部内陸	平取町	1,244	2,364	—	—	1,244	2,364
日高沿海	門別町	1,162	3,183	—	—	1,162	3,183
斜里	斜里町	2	9,900	—	—	—	9,900
"	小清水町	—	8,852	—	665	—	8,187
網走湖畔	網走市	87	13,794	—	3,000	—	10,794
士別	士別市	7,212	7,009	3,000	3,800	4,212	3,209
上川北部	美深町	1,016	4,535	—	409	1,016	4,126
日高山脈東山麓	更別町	—	9,180	—	—	—	9,180
"	中礼内村	—	6,428	—	—	—	6,428
頓別	浜頓別町	—	1,292	—	—	—	1,292

# 調査地区位置図



## 日高北部内陸地域 平取町

### 1 地区の概況

#### 1) 位置及び調査面積

##### (1) 位置

北海道沙流郡平取町

##### (2) 調査面積 (ha)

郡市町村名	農地総面積				調査対象面積				過年度調	
	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑
沙流郡平取町	1,224	2,364	—	3,608	1,244	2,364	—	3,608	244	364

査面積 (40)		本年度調査面積				次年度以降調査計画面積				備考
樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	水田	普通畑	樹園地	計	
—	608	1,000	2,000	—	3,000	—	—	—	—	

### 2) 気 候

本町は北海道の気候区分のうち、太平洋側西部に属し、年間を通じて温暖で雨量も適度である。しかし本町北部の振内方面は日高山地に近接しているため一般に雨量は多く、かつ秋季の初霜も早いようである

平取観測所の成績を示すと次表の如くである。

項目 \ 月別		4	5	6	7	8	9	10	11	
気 温 (℃)	平均	5.3	10.8	15.1	19.6	21.2	16.5	9.8	2.7	晩霜
	最高平均	12.4	18.2	21.4	25.1	26.4	22.8	16.9	9.3	5月11日
	最低平均	-1.9	3.4	8.8	14.1	15.9	10.1	2.7	-3.9	初霜
降水量 (mm)	平均	70	72	108	119	155	137	105	68	10月12日

### 3) 土地条件

#### (1) 地 形

本町の東北部から西南部に向かつて沙流川が流れており、本図幅のはほぼ中央部で貫気別川と合流した糠平川が注いでいる。これらの河川流域には河成段丘と狭長な低平地が存在し、低平地には水田、段丘には畑が開かれており本町の重要な農業地帯となっている。これらの背後はいつでも標高200~400mの山地で東部に向かつて急峻さを増しており、殆んど山林となっている。

#### (2) 地 質

古生層を主にした日高変成帯の西端部で山地は主に中生層や第三紀のものよりなる。従つてこれらを母材とした堆積物により段丘、低平地及び扇状地が形成されているが土壌は殆んどが樽前山、有珠山等の火山噴出物により被覆されている。これらの火山噴出物の概要を表層より示すと次の如くである。

樽前山火山灰a層(Ta-a)粒径1mm内外の浮石砂よりなり殆んど全町に薄層で存在すると思われるが作土に混合されているため断面記載は出来なかつた。

樽前火山灰b層(Ta-b)、粒径1mm内外の浮石砂に多量の黒色岩片を混入したもので全町に15~25cm前後の層厚で存在する。(一部作土に混合されている。)

有珠山火山灰c層(U-c)、粒径2mm内外、(最大4~5mm)の白色の浮石砂礫で本町には荷負部落以南に10cm前後の層厚で存在する。

樽前山火山灰c層(Ta-c)、腐植を多量に含有しており土性は触感でL~CLを示すが概して分散が悪い、全町に存在する。

樽前山火山灰d層(Ta-d)、赤褐色を呈し、上部は腐植を多量に含有する、下部の礫は3mm内の粒径で軟弱である。荷負部落以北に分布すると思われるがわずかに赤褐色の礫の点在が確認される程度である、振内から日高町との町界にかけて存在する。

恵庭岳火山灰a層(E-a)、黄褐のロームであるが本町には振内付近の高い段丘に存在が予想されるが全域山林であり本調査では確認していない。

支笏ローム及び降下軽石堆積物(Spfa)黄褐~赤褐のローム、浮石よりなり上部は腐植を多く含有した細粒なものである、本町南部の門別町境付近の台地に主として存在する。尚本町南部にはTa-cの上部に駒ヶ岳火山灰e層(K-e)と思われる\*不明火山灰が5~10cmの層厚で存在する。

\* 北海道農業試験場土性調査報告書第18編参照

### (3) 侵蝕状況

土壌が一般に前記した諸火山灰の浮石砂礫よりなるため、台地上の傾斜地、緩傾斜地のところでは水蝕の被害が大きい。特にこの地帯は軽種馬の産地であるため、粗放な管理により土壤侵蝕を助長していることも少なくない。

### (4) 土地利用及び営農状況

#### a) 耕地面積(ha)

総面積	水田	普通畑	牧草地	その他
3,268.6	1,589.4	1,055.3	618.6	5.3

#### b) 専業別・経営形態別農家数と農業従事者数

農家総数 (戸)	専業 (戸)	兼業 (戸)	自給 (戸)	経営形態別農家数(戸)					従事者数(人)		
				田作	畑作	田畑作	酪農	混同	世帯員	常雇	臨時雇(延)
1,008	413	341	254	379	67	141	67	100	2,914	26	42,059

#### c) 主要農作物作付面積と収量

	水稲	えん麦	麦類	小豆	豆類	馬鈴薯	てん菜	アスパラガス	トーマロコシ(青刈)	かぼちや
作付面積(ha)	1,360	401	5	237	411	143	36	30	265	40
10a当収量(kg)	544	192	120	130	140	1,500	2,710	250	6,260	2,100

#### d) 家畜飼養農家数と飼養頭羽数

	牛		馬		豚	めん羊	にわとり	牛乳生産量(t)
	乳用	役肉用	軽種馬	農耕馬				
総数(頭羽)	817	350	390	562	1,161	24	10,176	1,635
農家数(戸)	152	62	48	545	356	21	420	

e) 農用機械所有数

		農家数(戸)	台数(台)
10馬力未満	個人有	350	370
	共有	17	7
10馬力以上	個人有	125	125
	共有	38	12

本町は沙流川を主とする河川流域の低平地において水田作が行なわれ、特に市街地より下流域の門別町境までは本町の主要な水田地帯となっており生産性もかなり高い、この低平地をはさんで両側に分布する段丘あるいは台地においては畑作、混同及び酪農といった形態の経営が行なわれ、近年振内地区に罐詰工場が進出したのに伴って、アスパラガス、スイートコーン、かぼちや等の栽培が振興されている。また家畜の飼育も活発に進められ、乳牛、肉牛、豚等の飼育頭数も増加しており、一部の農家では副業として鯉の養殖も行なわれている。一般に太平洋西部沿岸の地帯は軽種馬の有数な産地として知られているが本町においても同様で、平取市街地周辺に大牧場が集中している。以上のように本町は畑作における栽培作物や飼育する家畜のいずれも多種多様であるがその管理技術のまづさから十分な収益を挙げえない農家が多いが、関係機関の強力な行政及び指導により今後更に管理技術の高度化あるいは合理化をめざして努力する必要があると思われる。

## 2 土壤類型区分及び説明

### 1) 土壤統一覧及び土壤区一覧

#### (1) 土壤統一覧

(水田)

土壤統名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		泥炭	黒泥	グライ	母材	堆積様式
					表土	次層					
荷 菜	YR/YR	表層腐植層なし	なし	あり	壤質	壤質	なし	なし	あり(70cm以下)	非固結水成岩 非固結火成岩	水積(河成)
アベツ	"	表層腐植層	"	"	"	"	"	"	"(60cm以下)	"	"
貫気別	YR/G	表層腐植層なし	あり(30~35cm以下)	"	"	粘質	"	"	"(15cm以下)	"	"
平 取	Y/YR	"	(60cm以下)	"	粘質	壤質	"	"	なし	"	"
去 場	"	"	なし	"	"	強粘質	"	"	"	"	"
トナイ	Y/Y	"	あり(50cm以下)	"	壤質	壤質	"	"	"	"	"



## ( 畑 )

土壌統名	色層序	腐植層序	礫層・砂礫層を混在する砂層	酸化沈積物	土性		母材	堆積様式
					表土	次層		
ニタツナイ	YR/YR	表層腐植層なし	あり	なし	砂質	砂質	非固結火成岩 固結水成岩	風積(火山性) 三紀
シラウ	"	" (埋没土層)	"	"	"	"	非固結火成岩	風積(火山性)
長知内	"	" ( " )	"	"	壤質	"	"	"
岩知志	"	表層腐植層	"	"	砂質	"	"	"
シリ	"	表層腐植層なし (埋没土層)	"	"	"	"	" 固結水成岩	" 洪積
二風谷	"	" ( " )	"	"	"	"	" "	" "
上貫気別	"	" ( " )	なし	"	"	"	非固結火成岩 固結水成岩	" 水積 (扇状堆土)
メム	"	表層腐植層	"	あり	"	"	非固結火成岩 固結水成岩	" "
紫雲古津	"	表層腐植層なし	あり	なし	壤質	"	固結水成岩 非固結火成岩	水積 (扇状堆土)
豊糠	"	"	"	"	"	礫質	固結水成岩	"
コウピラ	YR/	"	"	"	砂質	砂質	非固結火成岩 (水積物)	"
川向	YR <sub>h</sub> Y	"	"	あり	壤質	砂質	非固結火成岩 固結水成岩	風積(火山性) 洪積

## (2) 土壌区一覧

## ( 水 田 )

土壌区名	簡略分級式	面積 ( ha )	備 考
荷 菜 - 荷 菜	II fn	73	農牧適地面積 ( ha ) 190
アベツ - アベツ	II lrf	50	248
貫気別 - 貫気別	II dlfni	4	21
平 取 - 平 取	II l	949	2373
去 場 - 去 場	II f	116	201
トナイ - トナイ	II lfn	52	172

( 畑 )

土 壤 区 名	簡略分級式	面積 ( ha )	備 考
ニタツナイーニタツナイ	III te II d(w)fnis	1 1 2	農牧適地面積 ( ha ) 4 4 1
シ ラ ウーシ ラ ウ	II tfnise	2 0 8	8 9 6
長 知 内ー長 知 内	III tne II fis	8 5	2 6 9
岩 知 志ー岩 知 志	II tn	1 4 1	4 4 8
シ リーシ リ	III tfe II d(w)nis	5 8	2 7 9
二 風 谷ー二 風 谷	III f II tdgnise	7 6	4 9 4
上 貫 気 別ー上 貫 気 別	III fn II ti	7 2 5	1 3 3 6
メ ムーメ ム	II tni	8 3 6	2 3 1 7
紫 雲 古 津ー紫 雲 古 津	II tdg	1 9	9 6
豊 糠ー豊 糠	III di II tg(w)	8	4 3
コ ウ ビ ラーコ ウ ビ ラ	III fni II tw	4	2 3
川 向ー川 向	III fn II twi	9 2	4 9 7

荷 菜 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量4%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3、構造は粒質状を呈する。細孔を含む、膜状斑糸根状斑を含む、ち密度15前後で疎pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は平坦判然である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植含量4%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度2~3、構造は細塊状構造、細孔を含む、糸根状斑を含む、ち密度20前後で中、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後で腐植を欠く、土性はSを主とする浮石層。色は10YRで明度6~7彩度4~6、無構造で単粒状、ち密度17前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後。下層との境界は明瞭である。(Tab)

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性Sを主とする浮石層、色は10YRで明度7~8、彩度1~2、無構造で単粒状、ち密度11~12で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5~5.5、下層との境界は明瞭である。(UC)

第5層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はHCである。色は10YRで明度5~7、彩度2~3、無構造で均質状、管状斑を含む、ち密度13前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5~5.5、下層との境界は明瞭である。

第6層は概ね70cm前後で腐植を欠く、土性C(触)である。色は5~7.5GYで明度4~6、彩度1、無構造で均質状、ち密度12~14で疎。

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町紫雲古津 試坑No.7

第1層	0~15cm	腐植含む灰黄褐(10YR4/2)のSL、粒質状構造で細孔含む、膜状斑糸根状斑含む、ち密度14で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.8、調査時の湿り湿、層界判然。
第2層	15~30	腐植含む灰黄褐(10YR4/2)のSL、弱度の細塊状構造、細孔含む、糸根状斑含む、ち密度21で中、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第3層	30~45	腐植欠く明黄褐(10YR6/6)のS、単粒状、ち密度17で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半湿、層界明瞭(Ta-b)。
第4層	45~57	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/2)のS、単粒状、ち密度11で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.3、調査時の湿り半湿、層界明瞭(U-C)。
第5層	57~71	腐植欠く鈍黄橙(10YR6/3)のHC、均質状、管状斑含む、ち密度13で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第6層	71~	腐植欠く帯黄緑灰(5GY5/1)のC(触感)、均質状、ち密度14で疎、調査時の湿り潤。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重量 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~30	2.0		47.6	24.4	16.6	11.4	SL	160		2.23	0.19	11.9	3.7
2	30~45	1.3		94.5	4.2	0.5	0.8	S	135		—	—	—	—
3	45~57	0.9		89.9	3.8	5.0	1.3	S	81		—	—	—	—
4	57~71	6.4		3.2	7.1	40.7	49.1	HC			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	※磷酸吸収係数	有効態炭素 mg/100g	30℃ NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	4.8	4.0	3.1	11.8	4.9	2.0	0.2	60.2	596	6.7	8.6	0.46
2	5.5	4.7	1.3	1.7	0.8	0.5	0.1	82.3	186	9.3	0.7	0.26
3	5.3	4.4	1.9	5.0	1.7	1.0	0.1	56.0	420	7.3		0.45
4	5.2	3.9	2.5	30.1	17.3	8.4	0.9	88.4	1245	4.7		1.34

※ は乾土当り

A-2 他の土壤統との関係

本統に類似する土壤統としては平取統、貫気別統、アベツ統、トナイ統があるが前2統とは乾湿を異にし、貫気別統、トナイ統は下層に礫層が存在し、アベツ統とは表土の腐植量が異なるので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩非固結火成岩(浮石主)

A-4 堆積様式 水積(河成)

B 地形 沙流川下流西岸の平地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1016mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

E 農業上の留意事項 有機物の施用、塩基の補給、磷酸増施、排水の完備。

F 分布 北海道沙流郡平取町紫雲古津、去場、荷菜の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
荷 菜 - 荷 菜	II f n

② 土壤区別説明

荷 菜 - 荷 菜

示 性 分 級 式

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効土	耘表表表水	作化易遊グ	地透保湿然	保固土分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土	土の	土の	土の	土の	層換	害理	冠す	斜	水風
産土の	土の	土の	土の	土の	のの性	害物	害水	斜	水風
力の層	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
可能の	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
性厚	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
等深	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
級さ	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
量易	のの	のの	のの	のの	のの性	害物	害水	斜	水風
t d g p	l	r	w	f	n	i	a	s	e
稻 II	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I
畑 II	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I	I I I I
簡略分級式	稻 II	II f n							
	畑 II	II w f n							

A 土壤区の特徴

この土壤区は荷菜統に属する。表土の厚さは30cm内外で深く、有効土層1m以上で深い。透水性よく根系障害のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態中で肥沃度は中位、養肥分では苦土多、ほかはいづれも中、障害性、災害性も特でない。

B 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈しているなので組織的な排水工事の早期完了を必要とする。有機物を施用し地力増進をはかることが望ましい。

D 分布 北海道沙流郡平取町紫雲古津、去場、荷菜の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

# ア ベ ツ 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で腐植含量8%内外、土性SLを主とする。色は7.5YR~2.5Yで明度3~4、彩度2、粒質状構造を呈する。細孔含む、膜状斑糸根状斑含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ5cm前後で腐植を欠く、土性はS-SL(触感)である。色は7.5YR~10YRで明度3~4、彩度2~4、無構造で均質状を呈する。ち密度20前後で中、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ30cm前後で腐植を欠く、土性はS(触感)を主とする。黄白色の浮石小粒を主とし、岩片粒を混入する。単粒状を呈し、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(Ta-b, U-Cの水積物)。

第4層は概ね60cm以下で腐植を欠き土性は(触感)を主とする。色は10GYで明度4~5、彩度1、無構造で均質状を呈する。ち密度は15前後で疎。

### 代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町コウビラ 試坑No.23

第1層	0~25 cm	腐植富む灰褐(7.5YR 4/2)のSL、粒質状構造、膜状斑糸根状斑含む、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.8、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第2層	25~29	腐植欠く黒褐(7.5YR 3/2)のS-SL(触感)、無構造で均質状、ち密度20で中、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第3層	29~60	腐植欠く黄白の浮石粒を主とし、土性はS(触感)、単粒状、ち密度は疎、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第4層	60~	腐植欠く暗緑灰(10GY 4/1)のC(触感)均質状、ち密度は15で疎調査時の湿りは潤。

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~25	2.4		45.3	22.9	19.8	12.0	SL			4.90	0.42	11.6	8.2

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 mg/100g	30℃ NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	4.8	3.9	3.8	18.5	8.9	1.9	0.5	61.1	795	11.4	17.9	1.19

(※は乾土当り)

#### A-2 他の土壤統との関係

本統に類似する土壤統としては平取統、去場統、荷葉統、貫気別統、トナイ統があるが前2統とは乾湿を異にし、荷葉統、トナイ統とは表土の腐植含量が異なりトナイ統とはグライ層の有無により区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、非固結火成岩。

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

E 農業上の留意事項

排水完備、有機物施用

F 分布 北海道沙流郡平取町 荷菜、シラウ、コウビル、振内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和45年3月31日

(2) 土壤統の細分

① 土壤区一覽

土壤区名	簡略分級式
アベツ—アベツ	II l r f

② 土壤区別説明

アベツ統一アベツ区

示性分級式

土表有表耕		湛酸		土自養		障災傾侵		境					
土効	土効	土効	土効	土効	土効	土効	土効	土効	土効				
産土	産土	産土	産土	産土	産土	産土	産土	産土	産土				
力の層	力の層	力の層	力の層	力の層	力の層	力の層	力の層	力の層	力の層				
可の	可の	可の	可の	可の	可の	可の	可の	可の	可の				
能の	能の	能の	能の	能の	能の	能の	能の	能の	能の				
性厚	性厚	性厚	性厚	性厚	性厚	性厚	性厚	性厚	性厚				
等深	等深	等深	等深	等深	等深	等深	等深	等深	等深				
級さ	級さ	級さ	級さ	級さ	級さ	級さ	級さ	級さ	級さ				
t	d	g	p	l	r	w	f	n	i	a	s	e	
稻	II	I	I	I	I	2	1	II	2	2	2	2	
畑	III	II	I	I	I	2	1	II	2	2	1	II	
簡略分級式		稻		畑									
		II		II		l r f							
		畑		III		w II		t f					

### A 土壤区の特徴

この土壤区はアベツ統に属する。表土の厚さは25cm前後で深く、有効土層1m以上で深い。表土の土性は中粒質で耕起。砕土は容易である。湛水透水性大で易分解性有機物含量多く根系障害のおそれがある。保肥力中、固定力小、塩基状態良好で肥沃度中位である養分はいずれも多い。強酸性を呈する。障害性、災害性は特にない。

B 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

地下水の影響が強く湿性を呈しているので組織的な排水工事を行うたこと。

D 分布 北海道沙流郡平取町 苜蓿、シラウ、コウビル、振内の一部。

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

貫 気 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量2%内外、土性L~CLを主とする。色は10YRで、明度4、彩度2~3、構造は粒質状を呈する。系根状斑と点状斑を含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.0~5.5、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ20cm前後で腐植を欠き、土性CLを主とする。色は5~10GYで明度4~5、彩度1、弱度の細塊状構造もしくは均質状を呈する。ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は概ね35cm以下で未風化の中円礫よりなる礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町貫気別 試坑No.38

第1層	0~15cm	腐植含む灰黄褐(10YR4/2)のL、粒質状構造、糸根状斑、点状斑、グライ斑含む、ち密度14で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第2層	15~33	腐植欠く暗帯黄緑灰(5GY4/1)のCL、弱度の細塊状構造もしくは均質状構造ち密度18で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り湿、層界明瞭。
第3層	33~	未風化の中円礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	※全炭素 %	※全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~15	1.8		30.5	33.0	21.8	14.7	L			0.67	0.07	9.3	1.1
2	15~33	2.1		11.0	49.2	23.6	16.2	CL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			塩基飽和度 %	※ 燐酸吸収係数	有効態酸 mg/100g	30℃ NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.2	4.2	2.5	13.7	9.1	2.0	0.2	82.5	723	4.6	7.9	1.11
2	5.1	4.1	2.5	18.5	10.1	2.8	0.2	70.8	768	3.8	7.9	1.14

※ 乾土あたり

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては平取統、去場統、荷葉統、アベツ統、トナイ統 があるが前2統とは乾理を異にし、荷葉統、アベツ統は礫層なく、トナイ統はグラム層が存在しないので区別される。

A-3 母 材 非団結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地 形 低平地

C 気 候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

E 農業上の留意事項 有機物の施用、塩基の補給、磷酸増施、排水の完備

F 分 布 北海道沙流部平取町貫気別の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年 月 日

昭和 4 5 年 3 月 3 1 日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
貫気別一貫気別	II d l f n i

② 土 壤 区 別 説 明

貫気別統一貫気別区

示 性 分 級 式

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効土									
生土	耘表表水作化易遊グ地透保湿然保固土分置					有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐
産土の	土の土の土下	50cm還	性酸の	肥	のの性	態量	害理	冠す	斜	
力	の層のの乾	50cm最	有化イ	水水潤	肥定塩	石苦加	物質	害の	の	水風
可	のの粘	のち土	機鐵化乾	沃	基	灰土里	障	危危	傾傾	蝕蝕
能	厚含	難土着硬	物含	性性	状	豐素	有	險險	方	
性	等深	地性	量量	湿	度	否	無	度	斜斜	度性
級	ささ量易	性	性	度	度	量	性	性	斜	蝕
	t d g p	l	r	w	f	n	i	a	s	e
稻	II I II I I 1 2 1	II 3 2	I 1 2 3		II 2 2 1	II 1 1 2 2 1 2	II 1 2	I 1 1		
畑	III I I I 1 2 1			II 1 2 3	II 2 2 1	II 1 1 2 2 1 2	II 1 2	I 1 1	I 1	-- I 1 1 1
簡略分級式 稻 II II d l f n i										
畑 III d II t w f n i										

A 土壌区の特徴

この土壌は貫気別統に属する。表土の厚さは15~20cmで深く有効土層30~35cmで中庸、



保肥力中、固定力小、塩基状態良好で肥沃度は中位。養分分では石灰多、加里少、磷酸中、災害性は少ないが3.0～3.5cmより礫層で障害となっている。

B 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

湿性を呈している所以組織的な排水工事を実施し早期完了をはかること。有機物を施用し他力の増進をすすめるべきである。また加里、苦上等の塩基を補給するとともに磷酸を増施する必要がある。

D 分布 北海道沙流郡平取町貫気別の一部

記載責任者 宮 勝 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

平 取 統
-------

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15～20cmで腐植含量3～4%、土性はLを主とする。色は10YR～2.5Yで明度2～4、彩度1～3、構造は粒質状を呈する。糸根状の斑鉄を含む、ち密度15前後で疎 pH(H<sub>2</sub>O)5～5.5、下層との境界は明瞭～判然である。

第2層は厚さ10cm前後で概して腐植を欠く。土性はL～SLである。色は10YR～2.5Yで明度4～5、彩度3～4、構造は弱度の塊状構造で細孔を含み、糸根状の斑鉄を含む、ち密度17前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は判然である。

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠く、土性はL～SLである。色は5Y～10Yで明度4～5、彩度1、無構造で均質状もしくは一部弱度の塊状構造を呈する。細孔を含む。ち密度20前後で中下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性はS(触感)である。色は10YR～2.5Yで明度5～7、彩度2～4、無構造で単粒状、ち密度20前後で中、下層との境界は明瞭である。

第5層は概ね50～60cm以下で小～中円礫を含む～富む、土性はS(触感)である。無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎～中

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 沙流郡平取町苧菜 試験No.10

第1層	0～19cm	腐植含む帯黄緑褐(2.5Y4/3)～鈍黄褐(10YR5/3)のCL粒質状構造膜状斑糸根状斑含む、ち密度14で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、 査時の湿り湿、層界平坦明瞭
第2層	19～26	腐植欠鈍黄褐(10YR5/3)のSL、弱度の塊状構造と板状構造、細孔含み、橙の糸根状斑含む、ち密度16で疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、 調査時の湿り半湿、層界平坦判然
第3層	26～41	腐植欠く灰(10Y5/1)のSL、均質状を呈する、ち密度21で中、 pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り半湿、層界平坦明瞭
第4層	41～58	腐植欠くS、単粒状を呈す、ち密度20で中、調査時の湿り半湿、層界平坦明瞭
第5層	58～	腐植欠き、小・中円礫富むS、ち密度は疎～中、調査時の湿り半乾～半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒径組成%				土性	現地容積 重g	真比重	※全炭素 %	※窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	3.6		3.6	52.6	23.0	20.8	CL			1.79	0.14	13.1	3.0
2	19~41	3.0		1.3	70.8	21.0	6.9	SL			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 <sup>me</sup> /100g			塩基飽和度 %	※燐酸吸収係数	有効態 磷酸 mg/100g	30℃ NH <sub>4</sub> -N 発生量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.4	4.3	2.5	18.7	8.9	6.2	0.4	82.9	602	7.4	7.3	0.93
2	6.2	4.8	1.9	15.4	8.6	5.3	0.4	92.9	774	6.5	2.0	0.86

(※は乾土当り)

A-2. 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては去場統、荷葉統、貫気別統、アベツ統、トナイ統などがあるが去場統は土層内に砂層がなく、その他の統は湿性を呈するので区別される。

A-3. 母材 非固結水成岩、非固結火成岩(浮石等)

A-4. 堆積様式 水積(河成)

B 地形 沙流川とその支流の低平地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,015mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田に利用され一部畑地も存在する。

E 農業上の留意事項 有機物施用、燐酸増施

F 分布 北海道沙流郡平取町の沙流川とその支流域に分布する低平地

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
平取一平取	II l

② 土壌区別説明

平取統一平取区

示 性 分 級 式

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災	傾	侵					
壤	効土	表表表水	作作	易遊	グ地透保	濕然保固	土分	置 有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐		
土	土の	土土土	去	分	離	ラ	層	換 "	効	害	冠す	斜	為	水
力	の層	のの	風透	下50	還性酸	の	肥	のの性	態量	害物	害水	の	斜	為
可	の磔	の乾	50の	最	有化イ	水水潤	肥定	塩	石苦加	質	的	の	為	水
能	の厚	難土	粘土	の	機	鉄化乾	沃	基	灰土	酸要	障	の	傾	蝕
性	厚	含	土の	水	物	含	沃	状	含 "	素	害	危	傾	蝕
等	深	地	着	硬	土	密	沃	状	含 "	素	害	危	傾	蝕
級	さ	易	性	性	濕	度	度	否	性	性	斜	斜	度	性
級	さ	易	性	性	濕	度	度	否	性	性	斜	斜	度	性
	t d g p		l	r	w	f	n	i	a	s	e			
稲	II III I 2 1 1	II 3 2 I 1 2 1			I 2 1 1	I 1 1 1 2 1 2	I 1 1 1 1							
畑	II III I 2 1 1				I 1 2 1	I 2 1 1	I 1 1 1 2 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1
	簡 略 分 級 式	稲	II III l											
		畑	II III d											

A 土壌区の特徴

この土壌区は平取統に属する。表土の厚さは20cm前後で深く、有効土層60cm前後で深い、表土の土性は細粒質で耕起・砕土は容易である。

透水性良好で根系障害のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は高位に属する、養肥分では磷酸が中～やや少なめの他はいずれも多い、障害性、災害性のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 殆んど水田に利用されており、一部に畑地も存在する。

C 地力保全上の問題点

堆厩肥等の有機物を施用し地力増進をはかる必要がある。また磷酸が少なめであるから増施することが望ましい。

D 分 布 北海道沙流郡平取町の沙流川とその支流域に分布する低平地

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

去 場 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後、腐植含量4%内外、土性はLを主とする。色は10YR~2.5YRで明度4~5、彩度2~3、構造は粒質状で細孔を含む。明褐色の膜状斑糸根状斑を含む。ち密度1.7前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ2~3cm、腐植を欠き土性はLを主とする。色は10YR~2.5Yで明度4~5、彩度2~3、構造は均質状を呈する。明褐色の糸根状斑を含む、ち密度2.0前後で中、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ15cm前後、腐植含量2~3%、土性はCLを主とする。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度1~3、構造は中度の粒状構造もしくは弱度の塊状構造で細小孔を含む~富む。ち密度2.0前後で中、pH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は漸変である。

第4層は概ね40cm以下で腐植を欠き、土性はCL~Cである。色は10YR~2.5Yで明度5~6、彩度3、構造は中度の粒状もしくは塊状構造で細小孔を含む~富む。ち密度2.0前後で中、pH(H<sub>2</sub>O)6前後

代表的断面形態  
(所在地) 沙流郡平取町去場 試坑No.9

第1層	0~17cm	腐植含む暗灰黄(2.5Y <sup>5/2</sup> )のSiCL、粒質状構造、膜状斑糸根状斑含む、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.0、調査時の湿り湿、層界平坦明瞭
第2層	17~19	腐植欠く純黄褐(10YR <sup>5/3</sup> )のSiCL、無構造で均質状を呈する、糸根状斑含む、ち密度2.0で中、調査時の湿り湿、層界明瞭
第3層	19~35	腐植あり~含む灰黄褐(10YR <sup>5/2</sup> )のLiC、中度の粒状構造で細小孔含む、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半湿、層界漸変
第4層	35~	腐植欠く純黄褐(10YR <sup>5/3</sup> )のLiC、中度の粒状構造で細小孔含む、ち密度1.9で中、pH(H <sub>2</sub> O)6.0、調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫重量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 量 g	真 比 重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素 率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	2.8		31.0	22.8	28.8	17.3	SiCL	170		2.23	0.18	12.2	3.7
2	19~35	3.3		3.3	27.7	34.4	34.6	LiC		2.17	0.19	11.3	3.6	
3	35~	5.7		0.3	24.3	39.8	35.6	LiC		—	—	—	—	

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩 基 置 換 性 塩 基 me/100g				塩基飽和度 %	※ 磷酸吸収係数	有効態 磷 mg/100g	30℃NH <sub>4</sub> -N 発 生 量 mg/100g	遊離酸化鉄 %
	H <sub>2</sub> O	KCl		置換容量 me/100g	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	5.0	4.0	3.1	14.1	8.3	1.8	0.2	73.0	807	10.8	9.4	0.67
2	5.8	4.7	1.9	27.1	18.0	7.6	0.2	95.6	1044	7.9	5.4	1.33
3	6.0	4.7	1.9	25.0	15.9	7.4	0.4	94.8	1015	7.7		1.16

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌との関係

本統に類似する土壌統としては平取統、荷葉統、貫気別統、アベツ統、トナイ統などがあるが平取統は下層が砂層、砂礫層のため本統と異なり、また他の土壌統はいずれも湿性を呈するので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩、非固結火山岩（浮石等）

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 沙流川下流西岸の低平地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

E 農業上の留意事項 有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道沙流郡平取町荷葉、去場、紫雲古津の一部

調査及び記載責任者 官 脇 忠 （北海道立中農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
去場 - 去場	II f

② 土壌区別説明

去場統 - 去場区

示 性 分 級 式

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤	効	土								
生土	転表表水作化易遊グ地透保湿然保固土分置					有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
産土の	土土の風透50の最高機鉄化乾					層換"	害理	冠す	斜	為
力の層の	のの乾の粘土の水のち密土度					性態量	害物的	害水の	然の	水風
可	礫の乾の粘土の水のち密土度					石苦加磷	質障	危危	傾方	蝕蝕
能	の難土着硬土度					灰土里酸要	の有害	險險	傾方	蝕蝕
性厚	含難土着硬土度					状豊含"	無性	度度	斜向斜	度性性
等深	地性さ性					量" "素度	性無性	度度	斜向斜	度性性
級さ	さ量易					否	性	性	斜	蝕
	i d g p	l	r	w	f	n	i	a	s	e
稻	II II II 2 1 1 I	I 2 I	1 3 1		II 2 2 1	I 1 1 2 1 1 2	I 1 1 1	I 1 1		
畑	II II II 2 1 1			I 2 1 1	II 2 2 1	I 1 1 2 1 1 2	I 1 1 1	I 1 1 1	I 1	-- I 1 1 1
簡略分級式	稻	II	II f							
	畑	II	II t f							

A 土壌区の特徴

この土壌区は去場統に属する、表土の厚さは15~20cmで深く、有効土層1m以上で深い、表土の土性細粒質で耕起、碎土は容易である、透水性よく根系障害のおそれは少ない。

保肥力中、固定力小、塩基状態良好で肥沃度は中～高い、養分では加里が少めて他はいずれも多い。特殊な障害性、災害性はない。

B 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

有機物を施用して地力を高める必要がある。養分で加里が少なめであるから増施すべきである。

D 分布 北海道沙流郡平取町苧菜、去場、紫雲古津の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

ト ナ イ 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層の厚さ20～25cmで腐植含量2%内外、土性はLを主とする。色は10YR～2.5Yで明度3～4、彩度2～3、構造は粒質状を呈する、細孔を含む～富む、膜状斑糸根状斑含む、ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)4.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ30cm前後で腐植含量1～2%、土性はLを主とする。色は10YR～2.5Yで明度4～5、彩度3～4、無構造で均質状を呈する。点状斑と膜状斑を含む、ち密度2.3前後中、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は概ね50cm以下で未風化の円礫と川砂よりなる砂礫層である。

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町買気別 試坑No.33

第1層	0～22cm	腐植含む黒褐(2.5Y <sup>3/2</sup> )のSL、粒質状構造、細孔含む、膜状斑糸根状斑含む、ち密度1.6で疎、pH(H <sub>2</sub> O)4.6、調査時の湿り湿、層界明瞭
第2層	22～51	腐植ある帯黄緑褐(2.5Y <sup>4/3</sup> )のSL、無構造で均質状、点状斑と膜状斑を含む、ち密度2.3で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.7、調査時の湿り湿、層界明瞭
第3層	51～	未風化の円礫を主とする砂礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫重 含量%	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容積重 g	真 比 重	※ 全炭素 %	※ 全窒素 %	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0～22	2.2		22.6	44.8	17.6	15.0	SL	157		1.13	0.11	10.3	1.9
2	22～51	1.9		21.4	48.5	18.6	11.6	SL	183		1.45	0.11	12.7	2.4

層位	pH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 mc/100g			塩基 飽和 度%	※ 磷酸 吸収係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g	30℃NH <sub>4</sub> -N 発 生 量 mg/100g	遊離 酸化 鉄%
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O					
1	4.6	3.6	8.8	13.0	6.5	1.1	0.3	60.8	597	6.3	5.7	0.65
2	5.7	4.4	1.9	13.1	9.4	2.5	0.4	93.5	565	3.4	2.1	0.72

(※は乾土当り)

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては平取統、去場統、荷葉統、貫気別統、アベツ統があるが前2統とは乾湿を異にし、前2統とはいずれもグライ層が存在するので区別される。

A-3 母材 非固結水成岩

A-4 堆積様式 水積（河成）

B 地形 低平地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

E 農業上の留意事項 排水完備、有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道沙流郡平取町貫気別、トナイ、ニタツナイの一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
トナイ - トナイ	II l f n

② 土壌区別説明

トナイ統 - トナイ区

示 性 分 級 式

土表有表耕	湛	酸	土	自	養	障	災	傾	侵
壤効土	転表表表水作化易遊グ地透保湿然保固土分置	有微酸	有物	增地	自傾人	侵耐			
生土の	土土土土下50cm	還性酸	の	肥	のの性	効	害理	冠す	斜為
力の層	のの乾50の最高機鉄化乾	有化イ	水水潤	肥定塩	石苦加	態量	害物的	害水	のの
可能の	礫の粘土の水のち密	元物含	沃	基豊	灰土里	要	質障	のの	傾方
性厚含	深含地性さ	性	湿	度	力力態	量	有害	危	傾
等		性	度	否	素	度	無性	度	度
級さ	量易	性	性	度	量	性	性	斜	斜
	t d g p	l	r	w	f	n	i	a	s
稻	II III I 1 2 1	II 3 2 I	1 3 1		II 2 1 2	II 2 2 2 2 1 3	I 1 1 I 1 1		
畑	II III I 1 2 1			II 1 2 2	II 2 1 2	II 2 2 2 2 1 3	I 1 1 I 1 1 I 1	I 1	I 1 1
簡略分級式	稻	II	II l f n						
	畑	II	II t d w f n						

A 土壌区の特徴

この土壌区はトナイ統に属する、表上の厚さは20~25cmで深く、有効土層50cm以上で深い、表土の土性は中粒質で耕起、砕土は容易である。保肥力大、固定力ごく小、塩基状態で肥沃度は

中位である、養肥分はいずれも中庸で強酸性を呈する、障害性、災害性は特でない。

B 植生及び利用状況 殆んど水田として利用されている。

C 地力保全上の問題点

地下水の影響で湿性を呈しているので組織的な排水工事を行なうこと、また殆んどの養肥分が少なめであるから増施に必がけ、特に苦土入り肥料の施用を要する、有機物施用も必要であろう。

D 分布 北海道沙流郡平取町貫気別、トナイ、ニタツナイの一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

(畑)

ニ タ ツ ナ イ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ13cm前後で腐植含量5%内外、土性SLを主とする。色は7.5YR~10YRで明度3~4、彩度1~2、浮石を混入し無構造で単粒状もしくは極めて弱度の細粒状構造、ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-b混)

第2層は厚さ25~30cmで腐植を欠き、礫を含む浮石層、色は7.5YR~10YRで明度7~8、彩度2~3、無構造で単粒状を呈する、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(Ta-b)

第3層は厚さ30cm前後で腐植を欠く、土性はLを主とする、色は7.5YR-10YRで明度5~6、彩度4~6、中度の細塊状構造で細孔を含む、ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。

第4層は概ね70cm以下で砂岩を主とする半角礫~角礫よりなる礫層で礫間に土性CL~L(触感)を充填する、色は7.5YR~10YRで明度6~7、彩度4~6。

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町ニタツナイ 試坑No80

第1層	0~13cm	腐植含む黒褐(7.5YR <sup>3</sup> / <sub>2</sub> )のLS、極めて弱度の細粒状構造、ち密度疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	13~40	腐植欠く鈍橙(7.5YR <sup>7</sup> / <sub>3</sub> )の礫含むS(触感)、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第3層	40~70	腐植欠く明褐(7.5YR <sup>5</sup> / <sub>6</sub> )のL、中度の細塊状構造、細孔含む、ち密度疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.0、調査時の湿り半乾、層界漸変~判然、
第4層	70~	鈍橙(7.5YR <sup>6</sup> / <sub>4</sub> )のCL~L(触感)を充填する半角礫~角礫よりなる礫層。

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫重 含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~6	2.0		79.1	6.9	10.9	3.1	LS			2.59	0.20	12.9	4.3
2	34~70	7.3		14.4	41.7	31.6	12.3	L			2.48	0.23	11.0	4.1

層位	pH		置換 酸度 Y <sub>1</sub>	塩 基 置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石 灰 飽 和 度 %	磷 酸 吸 収 係 数	有 効 態 磷 酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.7	1.9	10.9	6.7	0.6	0.4	61.5	2377	17.0
2	5.0	4.1	5.0	23.5	7.4	0.2	0.3	31.5	1170	11.7



A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としてはシラウ統、シリ統、川向統などがあるがシラウ統、シリ統はいずれも埋没土層があり、川向統は湿性は呈するので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山砂礫）、固結水成岩（砂岩、頁岩）

A-4 堆積様式 風積（火山性）／三紀

B 地形 標高200～300mの丘陵地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね放牧地となっている。

E 農業上の留意事項

混層耕の実施、有機物の施用、塩基の補給、適切な土壌保全対策。

F 分布 北海道沙流郡平取町ニタツナイ、豊糠の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
ニタツナイーニタツナイ	III te II d(w) f n i s

② 土壌区別説明

ニタツナイ統ーニタツナイ区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土	耘 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土	の 風 乾	肥 定 塩	層 換 " " 効	有 害 理	冠 す	斜 為	水 風	
産 力 可 能 性 等	の 礫 含 深 量	の 粘 土 着 硬 性 性 易	水 水 潤 乾 沃 基 状 力 態 度	の 石 苦 加 磷 灰 土 里 酸 要 含 " " 素 度	害 物 的 質 障 の 害 無 性	害 水 的 危 險 度	の 傾 方 斜 向 斜 度 性 性	の 傾 方 斜 向 斜 度 性 性	の 傾 方 斜 向 斜 度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	III ■ II I I 1 1 (2)	(II) 1 3 (2)	II 2 4 1	II 2 2 1 1 1 2	II 1 2	I 1 1	II 2 --	III 3 2 2	
簡 略 分 級 式		III te II d(w) f n i s							

## A 土壤区の特徴

この土壤区はニタツナイ統に属する、表上の厚さは15cmならずで浅く、有効土層70cm前後で中庸である。表上の土性は中粒質で耕起、砕土は容易、透水性大、保水性小で一時的に過乾となることがある。

保肥力中、固定力大、塩基状態良好で肥沃度は中位、石灰、苦土は少ないほうである、作土下に浮石層が存在し障害となつている、5~10°傾斜地で水蝕のおそれが大きい。

B 植生及び利用状況 概ね放牧地となつている。

## C 地力保全上の問題点

作上下に層厚20cm前後の火山浮石層があり根郡の伸長に障害となつているので混層耕を実施すること（一部実施済み）、その際は60cm前後まで混層することが望ましい。また侵蝕を受けやすいので過放牧をつつしみ、土壤保全に留意する必要がある。

D 分 布 北海道沙流郡平取町ニタツナイ、豊糠の一部

記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和45年3月31日

# シ ラ ウ 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、土性SLを主とする、色は7.7YR~10YRで明度3~4、彩度2~3、弱度の細粒状構造、ち密度13前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~6、下層との境界は明瞭である、(Ta-b混)

第2層は厚さ10cm前後で腐植欠く小礫含む浮石砂礫層、ち密度14前後で疎、下層との境界明瞭である。(U-c)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量15~20%、土性Lを主とする、色は7.5YR~10YRで明度、彩度とも1、弱度の細塊状構造で細・小孔を含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~6、下層との境界は明瞭である。(不明火山灰)

第4層は厚さ10cm前後で腐植含量10%内外、土性Lを主とする、色は7.5YR~10YRで明度3~4、彩度1~2、弱度の細塊状構造で細・小孔を含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-c)

第5層は厚さ15cm前後で腐植含量15%内外、土性Lを主とする、色は7.5YR~10YRで明度、彩度とも1、弱度の細塊状構造で細小孔を含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は判状である。(支笏ローム)

第6層は厚さ15cm前後で腐植含量10%内外、土性Lを主とする、色は7.5YR~10YRで明度2~3、彩度1~2、弱度の細塊状構造で細・小孔を含む、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は判然である。(支笏ローム)

第7層は厚さ15cm前後で腐植を欠き土性L~CLである、色は10YRで4~5、彩度4~6、弱度の塊~細塊状構造、ち密度20~24で中、下層との境界は明瞭である。(支笏ローム)

第8層は概ね1m以下で浮石砂礫層である。(支笏降下軽石堆積物)

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町川向 試坑No.50

第1層	0~22cm	腐植含む黒褐(7.5 YR 3/2)のLS、弱度の細粒状構造、次石の浮石を混入する、ち密度1.3で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	22~32	腐植欠く鈍黄橙(10 YR 7/3)の浮石砂礫層
第3層	32~46	腐植頗る含む黒(7.5 YR 1/1)のL、弱度の細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.5疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	46~57	腐植含む黒褐(7.5 YR 3/1)のSL、弱度の細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.6疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第5層	57~70	腐植頗る含む黒(7.5 YR 1/1)のL、弱度の細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.1、調査時の湿り半湿、層界判然
第6層	70~87	腐植含む黒褐(7.5 YR 3/2)のL、弱度の細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、層界判然
第7層	87~100	腐植欠く褐(10 YR 4/4)のCL(触感)、弱度の塊~細塊状構造、細小孔含む、ち密度2.3で中、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第8層	100~	腐植欠く明褐(7.5 YR 5/6~8)の浮石礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫重量 %	粒 径 組 成 %				土性	現 地 容 積 重 g	真 比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~22	1.4		77.5	12.9	7.9	2.5	LS	119		1.45	0.11	13.4	2.4
2	32~46	12.3		10.8	36.9	37.9	14.3	L	102		10.61	0.45	23.4	17.7
3	46~57	10.6		20.6	44.6	29.6	5.1	SL	104		6.48	0.37	17.5	10.8
4	57~70	16.1		21.4	43.5	31.2	3.8	L	95		8.10	0.50	16.1	13.5
5	75~87	12.5		19.6	35.6	41.6	3.1	L	108		5.53	0.37	15.1	1.2

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.8	4.9	1.3	7.4	5.9	0.2	0.3	79.7	351	11.7
2	5.8	4.7	1.3	42.6	27.8	1.6	0.6	65.3	2419	1.5
3	5.1	4.3	2.5	25.3	6.5	0.5	0.1	25.7	2504	6.0
4	5.1	4.3	1.9	35.5	8.0	0.5	0.1	22.5	2754	4.6
5	5.2	4.5	1.3	26.4	4.3	0.6	0.2	16.3	2647	0.7

A-2 他の土壌との関係

本統に隣接する土壌統としてはニタツナイ統、シリ統、川向統があるがニタツナイ統は下層残積で堆積様式を異にし、シリ統とともに下層に支笏ローム層及び浮石礫層なく、また川向統は湿性を呈するので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(火山灰、火山砂礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地 形 標高50m前後の台地

C 気 候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね放牧地で一部畑がある。

E 農業上の留意事項

混層耕の実施、塩基の補給、侵蝕防止

F 分布 北海道砂流郡平取町川向、ニタツナイの一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
シラウーシラウ	II t f n i s e

② 土壌区別説明

シラウ統ーシラウ区

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤 効 土	転 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置	有 微 酸	有 物	増 地	自 傾 入	侵 耐 耐
生 土 土	の 土 土	の 風 乾	層 肥 定 塩	換 〃 〃 効	害 理 冠	害 水 冠	斜 為	斜 為	水 風
力 的 層	の 粘 土	水 水 潤	肥 沃	の 性 態	害 物 的 質 障	害 水 冠	の 傾	の 傾	水 風
可 能 性	の 深 含	乾 性 性 性	沃 基 狀	灰 土 里 酸 要	有 害 有 害	危 險 危 險	傾 方 傾	傾 方 傾	水 風
等 級	さ 量 易	性 性 性	力 力 態	量 〃 〃 〃 素 度	無 性 無 性	度 度 度	斜 向 斜	斜 向 斜	度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	II I I I I I I (2)	I I 2 1	II 2 1 1	II 2 2 2 1 1 2	II 1 2	I I 1 1	II 2 --	II 2 2 2	
簡 略 分 級 式		II t f n i s e							

A 土壌区の特徴

この土壌区はシラウ統に属する、表上の厚さ20~25cmで中庸、有効土層概ね1mで深い、表土の土性中粒質~粗粒質で耕起、碎土は容易である。透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない、保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は中位、石灰、苦土、加里等の塩基が不足気味である。

次層に浮石層が存在し障害となつている、災害性はなく、5°前後の傾斜を有し水蝕発生のおそれがある。

B 植生及び利用状況 概ね放牧地となっており、一部に畑もある。

C 地力保全上の問題点

未風化な厚石層が作土直下に存在しているので混層耕をする必要がある。その場合は1mまで有効であるが下層がいずれも磷酸吸収力強く、かつ塩基分に乏しいので土改資材を投入すること、加里苦土などを増施すること、水蝕発生が認められるので、土壤保全に留意することが望ましい。

D 分 布 北海道沙流郡平取町川向、ニタツナイの一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

長 知 内 統

(1) 土壤統の特徴概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ10~15cmで腐植含量2%内外、土性はS~SLである。色は7.5~10YRで明度2~3、彩度2~3、構造は発達弱度の細粒状構造、ち密度1.5前後で疎である。pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ25cm前後で腐植を欠き、礫を含む浮石礫層、色は7.5~10YRで明度7~8、彩度2~3、無構造で単粒状を呈する。下層の境界は明瞭である。(Ta-b)

第3層は厚さ5cm前後で腐植含量10~15%、土性はL~CLである。色は7.5~10YRで明度1~2、彩度1~2、発達弱度の細塊状構造で細孔含む。ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5~5.5(第4層とも)、下層との境界は明瞭である。(Ta-c)

第4層は厚さ15cm前後で腐植を欠き、土性L~CLである。色は7.5~10YRで明度4~5、彩度3~4、発達弱度の塊~細塊状構造で細孔を含む。ち密度1.8前後で疎、下層との境界は明瞭である。

第5層は厚さ15cm前後腐植含量5%内外で、土性はL~CL(触感)である。色は7.5~10YRで明度2~3、彩度3~4、発達弱度の塊~細塊状構造で細小孔含む。ち密度1.8前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5~5.5、下層との境界は判然である。

第6層は概ね70~75cm以下で腐植を欠き、土性はL~CL(触感)である。色は7.5~10YRで明度4~6、彩度6~8、発達弱度の塊~細塊状構造で細小孔を含む。ち密度1.8前後で疎である。

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 沙流郡平取町荷負 試坑No. 59

第1層	0~12cm	腐植含む黒褐(10YR <sup>2</sup> / <sub>2</sub> )のSL(触感)、弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り乾、層界明瞭
第2層	12~38	腐植欠く鈍黄橙(10YR <sup>2</sup> / <sub>3</sub> )の浮石砂礫層
第3層	38~43	腐植頗る富む黒(7.5YR <sup>2</sup> / <sub>1</sub> )のL、弱度の細塊状構造、細孔含む、ち密度1.4で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.3(第4層含む)。調査時の湿り半乾、層界明瞭
第4層	43~59	腐植欠く褐(7.5YR <sup>4</sup> / <sub>3</sub> )のL、弱度の塊~細塊状構造、細孔含む、ち密度1.8で疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭

第5層	59~73cm	腐植富む黒褐(7.5 YR 2/3)のL(触感)、弱度の塊~細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半乾、層界判然
第6層	73~	腐植欠く褐(7.5 YR 4/6)のL~CL(触感)、弱度の塊~細塊状構造、細小孔含む、ち密度1.8で疎、調査時の湿り半乾~半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分%	礫含量重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地容積重%	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~12	1.1		83.5	8.7	5.6	2.1	S			1.17	0.07	17.8	2.0
2	38~59	8.4		20.0	30.5	41.6	7.8	L			4.02	0.30	13.5	6.7
3	59~73	10.0		22.0	43.7	30.6	3.8	SL			4.41	0.33	13.6	7.4

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.5	4.6	1.3	5.6	3.0	0.1	0.9	53.6	315	9.1
2	5.3	4.4	1.3	20.7	10.2	0.2	0.7	49.3	2322	3.9
3	5.2	4.5	1.3	20.8	7.8	0.3	0.8	37.5	2271	5.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてはシリ統、二風谷統があるがいずれも下層に砂岩を主とする円礫が出現するので区別される。

A-3 母 材 非固結火成岩(火山礫主)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地 形 標高100m前後の河成段丘

C 気 候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね放牧地、採草地となっている。

E 農業上の留意事項

混層耕、有機物の施用、塩基の補給、水蝕防止

E 分 布 北海道沙流郡平取町荷負、長知内の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
長 知 内 - 長 知 内	III t fne I I s

② 土 壤 区 別 説 明

長 知 内 統 - 長 知 内 区

示 性 分 級 式 ( 畑 )

土 壤	表 土	有 効 土	耕 作 土	土	自 然 土	養 分 土	障 害 土	災 害 土	傾 斜 土	侵 蝕 土																											
生 産 力 の 可 能 性 等 級	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ	土 層 の 厚 さ																											
	易	易	易	易	易	易	易	易	易	易																											
	t	d	g	p	w	f	n	i	a	s	e																										
	■	■	I	I	I	I	1	1	(2)	I	1	2	1	■	3	1	2	■	3	3	1	2	1	2	■	1	2	I	1	1	■	2	--	■	3	2	2
簡 略 分 級 式											■ t f n e ■ i s																										

A 土 壤 区 の 特 徴

この土壌区は長知内統に属する、表土の厚さは10~15cmで浅く、有効土層は1m以上で深い。表土の土性中粒質で耕起、砕土は容易である。透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態中庸で肥決度は低位、養肥分では石灰、苦土が少なく、加里は多いが磷酸は中庸である。

作土下に浮石層があつて障害となつている。50前後の傾斜地で侵蝕のおそれがある。

B 植 生 及 び 利 用 状 況 概 ね 放 牧 地、採 草 地 と な っ て い る。

C 地 力 保 全 上 の 問 題 点

熔磷などの土改資材の投入をしながら混層耕をする必要がある。混層耕は1m程度まで可能である。また、有機物を施用し、磷酸の増施や苦土入り肥料の使用などで肥培管理をはかり、土壌保全にも充分配慮する必要がある。

D 分 布 北海道沙流郡平取町荷負、長知内の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

岩 知 志 統

(1) 土 壤 統 の 概 説

A 土 壤 統 の 特 徴

A-1 断 面 の 特 徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量7%内外、さ性はS~SLである。色は10VRで明度1~2、彩度1、発達弱度の細粒状構造で細孔含む。ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5~6、下層との境界は明瞭である。(To-b、Ta-b混)

第2層は厚さ5cm前後で腐植を欠く浮石層、色は10YRで明度5~6、彩度3~4(Ta-b)

第3層は厚さ15cm前後で腐植含量20%内外、土性CLを主とする。色は10YRで明度1~2、彩度1、発達中度の細塊状構造で細孔富む。ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は判然である。(T a - c)

第4層は厚さ10~15cmで腐植含量8%内外、土性はSLを主とする。色は10YRで明度5~6、彩度3~4、発達弱度の細塊状構造で、細孔に頗る富む。ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。(T a - c)

第5層は厚さ20~25cmで腐植含量15~20%、土性はCL(触感)を主とする。色は10YRで明度1~2彩度1、発達弱度の細塊状構造で細孔に頗る富む。ち密度は疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。(T a - d)

第6層は厚さ15cm前後で腐植含量3%内外、浮石礫を含み土性はS(触感)を主とする。色は10YRで明度4~5、彩度6、発達弱度の細塊状構造~細孔に頗る富む。ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(T a - d)

第7層は概ね85cm以下で腐植を欠く浮石砂礫層、色は2.5YRで明度4~5、彩度8。(T a - d)

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町上岩知志 試坑No 95B

第1層	0~16cm	腐植富む黒(10YR 1/1)のLS、弱度の細粒状構造、細孔富む。ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.8、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	16~22	腐植欠く鈍黄橙(10YR 9/4)の浮石層、単粒状、調査時の湿り乾、層界明瞭
第3層	22~35	腐植頗る富む黒(10YR 2/1)のCL、中度の細塊状構造、細孔富む。ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界判然
第4層	35~47	腐植富む鈍黄褐(10YR 5/4)のSL、弱度の細塊状構造、細孔頗る富む。ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第5層	47~70	腐植頗る富む黒(10YR 2/1)のCL(触感)、弱度の細塊状構造、細孔頗る富む。ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5前後、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第6層	70~85	腐植含み、浮石礫含む褐(10YR 4/6)のS(触感)、弱度の細塊状構造、細孔頗る富む。ち密度は疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第7層	85~115	腐植欠き浮石礫に富む赤褐(2.5YR 4/8)の浮石砂礫層、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第8層	115~	円礫を主とする礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~16	1.3		85.3	6.4	4.1	4.3	LS			4.29	0.24	17.8	7.3
2	22~35	7.1		38.6	20.1	20.8	20.5	CL			11.88	0.84	14.1	20.2
3	35~47	5.7		60.1	20.1	14.2	5.6	SL			5.4	0.41	13.2	9.2
4	47~70	12.7		19.7	49.3	20.5	10.5	SL			11.11	0.80	13.9	18.9
5	85~115	6.0		39.8	37.4	17.8	5.0	SL			4.94	0.38	13.0	8.4



層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽 和度 %	磷酸吸 収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.8	5.0	1.5	11.6	6.4	0.8	0.6	55.2	451	4.6
2	5.5	4.8	5.2	36.6	15.1	2.4	0.9	41.3	1693	6.7
3	5.5	5.0	2.2	15.9	3.0	1.1	0.3	18.9	1286	4.3
4	5.4	4.9	3.0	40.2	7.6	2.3	0.3	18.9	2169	4.1
5	5.9	5.3	0.4	27.8	2.0	1.2	0.1	7.2	1564	3.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてはシラウ統、シリ統などがあるがいずれも下層に特徴的な樽前火山灰d層(T a - d)が出現しないので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山砂礫)

A-4 堆積様式 風積(火山性)

B 地形 沙流郡中流の段丘

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地、採草地となっている。

E 農業上の留意事項

深耕、混層耕、有機物施用、塩基の補給

F 分布 北海道沙流郡平取町、岩知志、上岩知志の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日付 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
岩知志 - 岩知志	II tn

② 土壌区別説明

岩知志統一岩知志区

示 性 分 級 式 (畑)

土 壤	表 土	有 効 土	耕 作 表 土	土 質	自 然 土	養 分	障 害	災 害	傾 倒	侵 蝕		
生 産 力 の 可 能 性 等 級	効 土 の 層 の 厚 さ	土 質 の 難 易 量	表 土 の 風 乾 性	透 水 性	保 水 性	固 定 力	置 換 性	微 酸 性	物 理 的 障 害	地 冠 す べ り の 危 険 度	人 為 的 傾 倒 斜 度	耐 風 蝕 性
	t	d g p	w	f	n	i	a	s	e			
	■	■ I I I I 1 1	(2) I I 1 2 1	I 2 1 1	■ 2 2 1 2 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 1	I 1 1	— —	I 1 1 1	
簡 略 分 級 式    ■ t n												

A 土壤区の特徴

この土壤区は岩知志統に属する、表土の厚さは15～20cmで中庸、有効土層は1m以上で深い、表土の土性は中粒質～粗粒質で耕起、砕土は容易、透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は高位に属する。養分分では加里が多いが他のものはいずれも中庸である。障害性、災害性は特記すべきもなく、地形も3°以下で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況    概ね畑地、採草地となっている。

C 地力保全上の問題点

作土直下に薄層の浮石層が存在するので深耕もしくは混層耕を要する。その場合は有機物の施用とともに燐等の資材の投入を必要としよう。塩基類も不足がちであるから補給するのが望ましい。

D 分 布    北海道沙流郡平取町岩知志、上岩知志

記載責任者    宮 脇    忠    (北海道立中央農業試験場)

日    付    昭和45年3月31日

# シ リ 統

## (1) 土壤統の概説

### A 土壤統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ15cm前後で腐植含量3~5%、土性はS~SLである。色は10YRで明度3、彩度1~2、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.6前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 6前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-b混)

第2層は厚さ10cm前後で腐植を欠く浮石層、色は10YR、明度7~8、彩度4~8、無構造で単粒状、下層との境界は明瞭である。(Ta-b)

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠き礫を含む浮石砂礫層、色は10YR~2.5Yで明度7~8、彩度2~4、無構造で単粒状、下層との境界は明瞭である。(U-C)

第4層は厚さ5cm前後、腐植含量10~15%、土性CLを主とする。色7.5YRで明度1~2、彩度1、発達弱度の細塊構造、ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.5~6(第5層とも)、下層との境界明瞭である。(不明火山灰)

第5層は厚さ5cm前後腐植含量8%内外、土性CLを主とする。色は7.5YRで明度2~3、彩度1~2、発達弱度の細塊状構造、細孔に富む。ち密度1.5前後で疎、下層との境界は明瞭である。(Ta-C)

第6層は厚さ20cm前後で腐植含量10%内外、中円礫含み土性はCL(触感)を主とする。色は7.5~10YRで明度1~2、彩度1~2、発達弱度の塊状構造で細孔に頗る富む、ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>) 5.5~6、下層との境界は明瞭である。

第7層は厚さ10前後で腐植含量6~7%、円礫に頗る富み土性L(触感)を主とする。色は10YRで明度2~3、彩度1~2、無構造で均質状を呈する。ち密度は中~密、下層との境界は明瞭である。

第8層は概ね75cm以下で腐植を欠き中円礫を主とする礫円に10YRで明度4~5、彩度3~4の土性L(触感)を充填する。

## 代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 砂流郡平取町川向 試坑№47

第1層	0~13 <sup>cm</sup>	腐植含む履褐(10YR <sup>3/1</sup> )のS、弱度の細粒状構造、ち密度1.6で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.9、調査時の湿り乾、層界明瞭
第2層	13~22	腐植欠く鈍黄橙(10YR <sup>7/5</sup> )のS、単粒状、ち密度1.3で疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第3層	22~32	腐植欠く浅黄(2.5YR <sup>7/4</sup> )の礫含むS、単粒状、ち密度1.3で疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第4層	32~37	腐植頗る富む黒(7.5YR <sup>2/1</sup> )のL、弱度の細塊状構造、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第5層	37~42	腐植富む黒褐(7.5YR <sup>2/2</sup> )のL、弱度の細塊状構造、細孔富むち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭

第6層	42~64cm	腐植頗る富む黒(7.5 YR <sup>2/1</sup> )のCL(触感)、砂岩を主とする未風化円礫含む、弱度の塊~細塊状構造、細孔頗る富む。ち密度1.4で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.7、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第7層	64~74	腐植富む黒褐(10 YR <sup>3/2</sup> )のL(触感)、未風化円礫頗る富む、均質状、ち密度中~密、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第8層	74~	鈍黄褐(10 YR <sup>4/3</sup> )のL(触感)を充填する未風化の円礫層

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量重量 %	粒径組成 %				土性	現地容積重 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~13	1.0		86.7	6.5	4.9	1.8	S			1.84	0.16	11.2	3.1
2	32~42	7.7		25.5	24.7	38.5	11.2	L			6.26	0.40	15.8	10.4
3	42~64	8.0		24.2	44.9	23.1	7.8	SL			5.70	0.40	14.2	9.5

層位	pH		置換器度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	粒径組成 %			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	K <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	5.1	2.5	5.7	4.7	0.4	0.2	82.5	477	8.1
2	5.7	4.8	2.5	35.4	26.5	1.2	0.5	74.9	1806	1.2
3	5.7	4.8	1.9	30.8	23.2	1.9	0.6	75.3	2041	1.2

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としてはシラウ統、川向統があるがシラウ統は礫がなく、支笏ロームと浮合層が出現するので区別され、川向統は礫なく、かつ湿性を呈するので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩(火山砂礫)/固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/洪積

B 地形 標高100~150mの台地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね放牧地、採草地となつている。

E 農業上の留意事項

混層耕の実施、有機物施用、塩基の補給、侵蝕防止

F 分布 北海道砂流郡平取町川向の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
シリ - シリ	■ tfe ■ d(w) nis

② 土壤区別説明

シリ統 - シリ区

示 性 分 級 式 (畑)

土	表	有	表	耕	土	自	養	障	災	傾	侵																										
壤	効	土	耘	表	表	地	透	保	湿	然	固	土	分	置	有	微	酸	有	物	増	地	自	傾	人	侵	耐	耐										
生	土	の	土	の	土	の	風	の	乾	水	水	潤	肥	の	の	性	態	量	害	物	的	害	水	冠	す	斜	為	水	風								
産	土	の	土	の	土	の	乾	粘	土	の	乾	沃	基	状	豊	含	"	"	"	質	障	の	害	危	傾	方	傾	蝕	蝕								
力	の	層	の	の	の	の	性	性	度	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性						
可	能	性	厚	深	含	難	土	着	硬	性	性	度	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性			
等	級	さ	さ	量	易	性	性	度	性	性	度	力	力	態	量	"	"	素	度	無	性	性	度	度	斜	向	斜	度	性	性	度	性	性				
		i	d	g	p	w	f	n											i	a	s	e															
		■	■	■	I	I	1	1	(2)	(■)	1	2	(2)	■	3	1	1	■	2	3	2	2	1	2	■	1	2	I	1	1	■	2	—	■	3	2	2
簡 略 分 級 式												■ t f e ■ d(w) n i s																									

A 土壤区の特徴

この土壤区はシリ統に属する。表土の厚さは15cm足らずで浅く、有効土層75cm前後で中庸である。表土の土性は中粒質～粗粒質で耕起、碎土は容易である。透水性大、保水性中～小で一時的に過乾のおそれがある。保肥力小、固定力ごく小、塩基状態良好で肥沃度は低位、養分では苦土が少なく、他のもの中～少なめである。作土下に浮石層が存在し障害となっており、5°前後の傾斜地で水蝕発生もかなり認められる。

B 植物生及び利用状況 概ね放牧地、採草地となっている。

C 地力保全上の問題点

混層耕を実施して保肥力を高めること、その場合は有機物、石灰、燐等の資材の投入が必要である。またいずれの養分も少なめであるから施肥量を増やすこと、侵蝕防止に努めること。

D 分 布 北海道砂流郡平取町川向の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

## 二 風 谷 統

### (1) 土壤統の概説

#### A 土壤統の特徴

##### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3%内外、浮石の小礫をわずかに含み土性Sを主とする。色は10YRで明度2~4、彩度2~3、単粒状もしくは弱度の塊状構造、ち密度は1.0以下で極疎、pH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-b, U-C混合)

第2層は厚さ前後で腐植を欠き、浮石小礫を含む砂礫層、色は10YRで明度7~8、彩度1~2、無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎、下層との境界明瞭である。(U-C)

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量10~15%、土性はL-CLである。発達中度の細塊状構造と弱度の塊状構造で細孔に富む。ち密度1.7前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-C?)

第4層は厚さ40前後で腐植を欠き、砂岩を主とする末~半風化の円礫を含み~富む。土性はL~CLである。色は10YRで明度4~5、彩度4~6、発達弱度の塊状構造、細孔富む。ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は漸変である。

第5層は概ね75cm以下で腐植を欠き砂岩を主とする末~半風化円礫に頗る富む。土性CL(触感)を主とする。色は10YRで明度5~6、彩度4~6、無構造で均質状を呈する。ち密度2.2前後で中である。

#### 代表的断面形態

(所在地) 砂流郡平取町二風谷 試坑No. 82

第1層	0~19cm	腐植含む黒褐(10YR <sup>3/2</sup> )のLS浮石礫含む単粒状もしくは弱度の細粒状構造、ち密度1.0以下で極疎、pH(H <sub>2</sub> O)6.3調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	19~29	腐植欠く灰白(10YR <sup>8/2</sup> )の浮石砂礫層、単粒状、ち密度は疎、調査時の湿り乾、層界明瞭
第3層	29~37	腐植頗る富む黒(10YR <sup>1/1</sup> )のL、中度の細塊状構造と弱度の塊状構造、細孔富む。ち密度1.7で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	37~76	腐植欠く褐(10YR <sup>4/4</sup> )のL、末~半風化円礫含む~富む。弱度の塊状構造、細孔富む。ち密度1.6で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.2、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第5層	76~	腐植欠く鈍黄褐(10YR <sup>5/4</sup> )のCL(触感)、末~半風化円礫頗る富む。無構造で均質状を呈する。ち密度2.2で中、調査時の湿り半湿、層界明瞭

#### 代表的断面の分析成績

層位	採取部 位置cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~19	1.7		81.8	6.9	8.7	2.7	LS			1.99	0.16	12.4	3.3
2	29~37	6.7		24.2	24.0	37.1	14.8	L			8.19	0.56	14.6	13.6
3	37~76	6.6		26.2	34.1	33.2	6.4	L			—	—	—	—

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性温度 me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	6.3	5.8	1.9	9.1	13.6	0.4	0.2	149.4	2213	11.7
2	5.2	4.5	1.3	39.7	17.1	1.0	0.4	43.1	1162	2.5
3	5.2	4.4	1.9	15.0	13.9	0.3	0.9	26.0	1117	3.0

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統には長知内統、シリ統、川向統があるが長知内統は下層に礫なく、シリ統は埋没腐植層が本統より厚く、また川向統は湿性を呈し下層にグライ層が出現するので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山砂礫）／固結水成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 標高 50～100m の段丘

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね放牧地、採草地となっている。

E 農業用上の留意事項

混層耕、有機物の施用、塩基の補給、侵蝕防止

F 分布 北海道砂流郡平取町苜蓿、コウビラ、二風谷の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠（北海道立中央農業試験場）

年月日

昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
二風谷-二風谷	■f■tdgnise

② 土壌区別説明

二風谷統 - 二風谷区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐
生土	耘表表土	ののの	層	換	有微酸	害理	冠す	斜為	水風
産の層	ののの	水水潤	肥のの	の性	態量	害物的	害水の	然の	蝕
力の層	ののの	乾	肥塩	石苦加	磷	質障	のの	傾方	蝕
可能厚	ののの	乾	沃	基	豊	の害	危危	傾方	蝕
性深	含	性性度	力力態	含	量	有無	險險	斜向斜	度性性
等級	ささ量	湿	度	否	素度	性	性	斜	蝕
	t d g p	w	f	n		i	a	s	e
	■ ■ ■ ■ I 1 1 (2)	I 1 2 1	■ 2 4 1	■ 1 3 2 1 1 1		■ 1 2	I 1 1	■ 2 --	■ 2 2 2
簡略分級式 ■ f ■ t d g n i s e									

A 土壤区の特徴

この土壤区は二風谷統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層概ね1mまでで中庸である。表土の土性中粒質～粗粒質で耕起、砕土は容易、透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ない。保肥力中～小、固定力大、塩基状態良好で肥沃度は低位である。養肥分では苦土が少なく、加里中で他は多い。災害性は特になく、作土下の浮石層の存在が障害となっている。5°前の傾斜を有し、侵蝕のおそれがある。

B 植生及び利用状況 概ね放牧地、採草地となっている。

C 地力保全上の問題点

作土下の浮石層が障害となっているので混層耕をすることが望ましい。また有機物の施用、苦土入り肥料の使用が必要で加里なども増施すること、水蝕発生も見られるから耕起後の早期牧草播種や荒廃草地の更新等をはかり土壤保全に充分留意すること。

D 分 布 北海道砂流郡平取町荷葉、コウビラ、二風谷の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日



上 貫 気 別 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3~5%、土性S~SLである。色は7.5 YRで明度2~3、彩度1~3、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.2前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5.5前後、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ10cm前後で腐植を欠く浮石層、色は10 YRで明度6~7、彩度1~3、無構造で単粒状を呈する。ち密度は疎、下層との境界明瞭である。(Ta-b)

第3層は厚さ10cm前後で腐植含量8~9%、土性CL~LiCである。色は10 YRで明度1~2、彩度2~3、弱度の細塊~塊状構造で細孔含み~富み、小孔含む。ち密度1.6~1.8で疎、pH(H<sub>2</sub>O) 5前後、下層との境界明瞭である。

第4層は概ね40cm以下で腐植を欠く、土性はL-CLを主とする。弱度の細塊~塊状構造で細孔に富み、小孔を含む。ち密度1.8前後で疎~中、pH(H<sub>2</sub>O) 5前後

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町上貫気別 試坑679

第1層	0~20cm	腐植含む黒(7.5 YR 2/1)のS、弱度の細粒状構造、ち密度1.2で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第2層	20~30	腐植欠く鈍黄橙(10 YR 7/2)の浮石層、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	30~42	腐植富む黒褐(10 YR 2/2)のLiC、弱度の細塊~塊状構造、細孔富み小孔含む。ち密度1.6で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.0、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	42~	腐植欠く褐(10 YR 4/4)のL、弱度の細塊~塊状構造、細孔富み、小孔含む。ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 4.8、調査時の湿り半湿、層界明瞭

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	礫含量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	1.4		84.6	7.7	6.6	1.0	S			1.99	0.12	16.3	3.3
2	30~42	8.6		19.5	18.1	37.0	25.3	LiC			5.60	0.50	11.2	9.3
3	42~	9.0		13.8	36.8	38.7	10.7	L			2.85	0.31	9.3	4.8

層位	pH		置換酸度Y <sub>1</sub>	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.4	2.5	4.8	2.0	0.2	0.2	41.8	1352	15.0
2	5.0	4.0	2.5	29.5	8.9	0.9	1.4	30.2	945	4.1
3	4.8	4.1	3.1	24.3	4.8	0.7	0.9	19.7	2377	6.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としてはMEM統があるが本統にくらべ表土及び埋没腐植層の腐植含量高く、かつ礫を有する場合は非常に多く区別した。

A-3 母材 非固結火成岩、固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(扇状堆土)

B 地形 河成段丘上の扇状地

C 気候 年平均温度 6.7℃ 年降水量 1,106mm

D 植生及び利用状況 畑が多いが採草地、放牧地または水田も一部にある。

E 農業上の留意事項

混層耕、有機物の施用、塩基の補給

F 分布 北海道沙流郡平取町沙流川、糠平川、宿主別川の流域

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覽

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
上貫気別一上貫気別	III fn II ti

② 土壌区別説明

上貫気別統一上貫気別統

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土	耘表表土	のの風の	層	換	効	害理	冠す	斜為	水風
産	土の土の	水水潤	肥の性	石苦加	態量	害物的	害水り	然為	水風
力の層	のの乾	のの乾	肥定塩	石苦加	態量	害物的	害水り	然為	水風
可能	の礫	粘土の乾	沃基	豊灰土	里酸要	の害	危危	傾方	傾
厚	含難土着	性性	力力	含	素	無性	險險	斜向斜	度性性
等級	ささ量易	湿	度	否	素	無性	度	斜向斜	度性性
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	II I I I I I (2)	I 1 2 1	III 3 2 2	III 3 3 2 1 1 2	II 1 2	I 1 1	I 1 1	—	I 1 1 1
簡略分級式		III fn II ti							

## A 土壌区の特徴

この土壌区は上質気別統に属する。表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層1m以上で深い。表土の土性中粒質～粗粒質で耕起、碎土は容易である。透水性大、保水性中で過湿、過乾のおそれは少ないが部分的に滲透水の影響で湿性を呈するところがあるが面積的に狭少のためこれを包含した。保肥力小、固定力小、塩基状態中で肥沃度は低位である。養分分では石灰、苦土が少なく他は中庸である。作土下の浮青層が障害となつているが災害性はない。

B 植生及び利用状況 概ね畑となつているが採草地、放牧地、また水田も一部にある。

## C 地力保全上の問題点

作土下に浮青層が存在するので混層耕をする必要がある。その場合は土改資材（石灰、燐等）の投入を必要とする。また、有機物を施用し、苦土入り肥料の使用や加里等増施を要する。

D 分 布 北海道沙流郡平取町の沙流川、糠平川、宿主別の一部

記載責任者 宮 脇 忠（北海道立中央農業試験場）

日 付 昭和45年3月31日

メ ム 統
-------

## (1) 土壌統の概説

### A 土壌統の特徴

#### A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量5%内外、土性はS～SLを主とする。色は7.5YR～10YRで明度2～3、彩度1～2、発達弱度の細粒状構造、ち密度1.3前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植を欠く浮石層、色は7.5YR～10YRで明度7～8彩度3～4。無構造で単粒状を呈する、ち密度1.2前後で疎、下層との境界は明瞭である。(Ta-b)

第3層は厚さ10cm前後で腐食含量10～15%、砂岩を主とする中～大円、巨礫に富み、土性はCLを主とする、色は7.5YR～10YRで明度1～2、彩度1～2、発達弱度の細塊状構造で細孔に富む、ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。(Ta-C混)

第4層は厚さ10～15cmで腐植含量8%内外、砂岩を主とする中～巨円礫に富み土性はL～CLである。色は7.5YR～10YRで明度3～4、彩度2～4、中度の細塊状構造、細小孔に富む、ち密度1.5前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は判然である。

第5層は厚さ15cmで腐植含量2%前後、土性はLを主とする、色は7.5YR～10YRで明度3～5、彩度3～4、発達中度の塊状構造で細小孔に富み、中孔含む、ち密度1.8前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は判然である。

第6層は概ね70～75cm以下で腐植を欠き土性はL(触感)を主とする。色は2.5Yで明度6～7、彩度4～6、発達弱～中度の塊状構造点状斑含む、ち密度2.0前後で中。

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町 貫気別、試坑653

第1層	0~21 cm	腐植富む黒褐(7.5 YR 3/1.5)のS、弱度の細粒状構造、ち密度1.3で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.5、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第2層	21~36	腐植欠く鈍黄橙(7.5 YR 7/3)の浮石層、単粒状を呈す、ち密度1.2で疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	36~46	腐植頗る富む黒(7.5 YR 2/1)のCL、中~大円礫富む、弱度の細塊状構造、細孔富む、ち密度1.4で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	46~59	腐植富む暗褐(7.5 YR 3/3)のL、中~大円礫富む、中度の細塊状構造、細小孔富み中孔含む、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.4、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第5層	59~74	腐植ある褐(7.5 YR 4/4)のL、中度の塊状構造、細小孔富み、中孔含む、ち密度1.8で疎、pH(H <sub>2</sub> O) 5.5、調査時の湿り半湿
第6層	74~	腐植欠く浅黄(2.5 Y 7/4)のL(触感)、弱~中度の塊状構造、細小孔含む、中孔含む、点状斑含む、ち密度1.9で疎、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部 位 cm	水分 %	礫含量 重量%	粒 径 組 成 %				土性	現地 容積 重 g	真比 重	全炭 素 %	全窒 素 %	炭素 率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~21	1.2		85.9	6.3	5.6	2.1	S			2.35	0.19	12.7	3.9
2	36~46	7.2		22.2	33.3	22.4	22.1	CL			5.64	0.50	11.2	9.4
3	46~59	9.6		17.1	46.0	29.2	7.7	L			4.30	0.34	12.7	7.2
4	59~74	7.1		24.2	32.9	33.5	9.5	L			2.01	0.19	10.9	3.4

層位	pH		置換酸 度 Y <sub>1</sub>	塩基置換 容量 me/100 g	置換性塩基 me/100 g			石 灰 飽和度 %	磷 酸 吸 係	酸 収 数	有効態 磷酸 mg/100 g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O				
1	5.5	4.8	1.3	8.4	5.6	0.3	0.1	66.7	376	5.1	
2	5.4	4.5	1.9	27.0	14.5	0.8	0.7	53.7	1841	2.4	
3	5.4	4.4	1.9	25.5	10.6	1.1	0.6	41.6	2121	1.8	
4	5.5	4.4	1.9	19.2	6.8	1.4	0.8	35.4	1577	1.5	

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては上貫気別統があるが、表土及び埋没腐植層の腐植含量が本統よりも少なく、かつ土層中に石礫が存在しないので区別される。

A-3 母材 風非固結火成岩、固結水成岩

A-4 堆積様式 風積(火山性)/水積(扇状堆土)

B 地 形 河成段丘上の扇状地

C 気 候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,106 mm

D 植生及び利用状況 殆んど畑地、採草地であるが一部に水田がある。

E 農業上の留意事項

混層耕、塩基の補給



C 地力保全上の問題点

作土下に浮石層があるので混層耕をすること、その際は下層の礫が出現すると思われるので除石を要する。苦土加里に乏しいので苦土入り肥料を使用し、加里などを増施すること。

D分 布 北海道沙流郡平取町の沙流川、糠平川、宿主別川の流域段丘上

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

柴 雲 古 津 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20~25cmで腐植含量2%内外、砂岩を主とする小~中円礫を含み土性はSLを主とする。色は10YRで明度4~5、彩度3~4、発達弱度の細粒状構造、ち密度15~20で疎~中、pH(H<sub>2</sub>O)6前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ15cm前後で腐植を欠き砂岩を主とする小円礫に富む。土性はSを主とする。色は10YRで明度3~4、彩度4~5、無構造で単粒状を呈する。ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第3層は厚さ5cm前後で腐植含量5~10%、土性はSL(触感)を主とする。色は7.5~10YRで明度2、彩度1~2、発達中細塊状構造、ち密度15前後で疎、下層との境界は明瞭である。

第4層は厚さ15前後で腐植を欠き、土性S(触感)の浮石層、色は7.5~10YRで明度6~7、彩度4~6、無構造で単粒状、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(Ta-b)

第5層は厚さ10cm前後で腐植を欠き浮石の小礫を主とする浮石礫層、色は7.5~10YRで明度7~8、彩度1~2、無構造で単粒状、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(U-C)

第6層は概ね70cm以下で腐植を欠き、小円礫を含む、土性はL(触感)、色は10YRで明度5~6、彩度3~4、発達中達の細塊状構造で細塊状構造で細孔含み、小孔に富み、中孔を含む。ち密度は疎

代 表 的 断 面 形 態

(所在地) 沙流郡平取町柴雲古津 試坑4656

第1層	0~23 <sup>cm</sup>	腐植含む鈍黄褐(10YR 4/3)のSL、小~中円礫含む。弱度の細粒状構造、ち密度19で中、pH(H <sub>2</sub> O)5.9、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第2層	23~37	腐植欠く暗褐(10YR 3/4)のLS、小円礫含む。単粒状、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第3層	37~42	腐植富む黒(7.5YR 2/1)のSL(触感)、中度の細塊状構造、ち密度13で疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	42~58	腐植欠く鈍橙(7.5YR 7/4)と橙(7.5YR 6/6)の浮石層、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第5層	58~70	腐植欠く灰白(7.5YR 8/2)の浮石小礫層、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第6層	70~	腐植欠く鈍黄褐(10YR 5/4)のL(触感)、中度の細塊構造、細孔、中孔含み小孔富む。ち密度疎、調査時の湿り半湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位cm	水分%	礫含量%	粒径組成%				土性	現地容積重g	真比重	全炭素%	全窒素%	炭素率	腐植%
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~23	2.2		47.9	34.8	10.7	6.6	SL			1.06	0.12	9.1	1.8
2	23~37	1.5		72.4	31.6	2.5	3.4	LS			0.78	0.08	10.2	1.3

層位	pH		置換酸度Y <sub>1</sub>	塩基置換容量me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽和度%	磷酸吸収係数	有効態磷酸mg/100g
	H <sub>2</sub> O	HCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.9	4.9	1.9	12.6	11.0	0.4	1.0	87.3	72	60.4
2	5.6	4.6	1.9	7.9	6.5	0.9	0.4	82.3	233	14.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統にはMEM統、豊糖統があるがMEM統とは表土の腐植含量多く、埋没腐植層厚く、豊糖統は礫層が厚く堆積しているので区別される。

A-3 母材 固結水成岩、非固結火成岩

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 低地と台地との間の扇状地

C 気候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 殆んど採草地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、苦土入り肥料の施用

F 分布 北海道沙流群平取町柴雲古津、オユンベの一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年月日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
柴雲古津 - 柴雲古津	■tdg

② 土壌区別説明

柴雲古津統一柴雲古津区

示性分級式(畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵	
壤効土 生土の層の厚 力可厚性 等級	土のの粘土の ののののの ののののの ののののの ののののの	地透保湿 潤 乾 湿	然保固土 肥定塩基 沃基 力力態 度度度	分置 層換 のの性 石苦加 灰土里 含 量	有微酸 有物 害物的 質障 の害 無性	増地 冠す ののの 危危 険険 度度	自傾人 斜為 のの 傾方 斜向 斜向 度度 性性	侵耐 水風 蝕蝕 蝕蝕 蝕蝕 性性
t	d g p	w	f	n	i	a	s e	
II	II II I 1 1 1	I 1 2 1	I 2 1 1	I 1 3 1 1 1 2	I 1 1	I 1 1	I 1 -- I 1 1 1	
簡略分級式 II t d g								

A 土壌区の特徴

この土壌区は紫雲古津統に属する。表土の厚さ20～25cmで中庸、有効土層概ね1m未満で中庸、表土の土性中粒質で耕起、砕土は容易、透水性大、保水性中で過湿過乾のおそれは少ない。保肥力中、固定ごく小、塩基状態良好で肥状態は高位に属する、養肥分は若土少ないが他はいずれも少ない。

特殊な障害性、炎害性はない。

B 植生及び利用状況 殆んど採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

腐植が少ないので堆肥等の有機物を施用すること、また苦土が欠之しているから熔燐などの苦土の入っている肥料を使用する必要がある。

D 分布 北海道沙流郡平取町紫雲古津、オユンベの一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

豊 糠 統

(1) 土壌統の概説

A 土壌統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量2%内外、頁岩を主とする角～半角小礫を含む、土性はSを主とする、色は10YRで明度4、彩度2～3、発達弱度の細粒状構造、ち密度15前後で疎、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界明瞭である。

第2層は厚さ45cm前後で頁岩、黒色頁岩等の角～半角小礫よりなる礫層。

第3層は概ね65cm以下で腐植を欠き、頁岩黒色頁岩等の角～半角小礫に頗る富む、土性L～CL(触感)である、色は10YRで明度4～5、彩度3～4、無構造で均質状を呈する。



代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町豊糠 試坑No.69

第1層	0 ~ 20cm	腐植含む鈍黄褐(10YR4/3)のS、角~半角小礫含む、極めて弱度の細粒状構造、ち密度1.5で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.4、調査時の湿り乾、層界明瞭
第2層	20 ~ 65	角~半角小礫よりなる礫層、調査時の湿り半乾、層界明瞭
第3層	65 ~	腐植欠く鈍黄褐(10YR5/3)のL(触感)、角~半角小礫に頗る富む、均質状、ち密度密~極密、調査時の湿り乾、

代表的断面の分析成績

採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒 径 組 成 %				土 性	現地容 容重g	真比 重	全炭素 %	全窒素 %	炭素 率	腐植 %
			粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	3.6	76.9	11.7	7.5	3.9	S			1.19	0.17	6.9	2.0

層位	pH		置換酸 度Y <sub>1</sub>	塩基置 換容量 me/100g	置換性塩基me/100g			石灰飽 和度%	磷酸吸 収係数	有効態 磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.3	1.3	20.7	15.6	2.0	0.6	75.4	73.6	28.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統としては紫雲古津統があるが本統は土層内に火山浮石層が存在しないので区別される。

A-3 母 材 固結水成岩(頁岩、黒色頁岩等)

A-4 堆積様式 水積(扇状堆上)

B 地 形 低地と丘陵地の接する扇状地

C 気 候 年平均気温 6.7℃ 年降水量 1,016mm

D 植生及び利用状況 概ね畑となっている。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、深耕

F 分 布 北海道沙流郡平取町豊糠の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土 壤 区 一 覧

土 壤 区 名	簡 略 分 級 式
豊 糠 統-豊 糠 区	■di■tg(w)

② 土 壤 区 別 説 明

豊 糠 - 豊 糠

示 性 分 級 式 (畑)

土 表 有 表 耕	土	自	養	障	災	傾	侵
壤 効 土	耘 表 表 表	地 透 保 湿	然 保 固 土	分 置 有 微 酸	有 物 增 地	自 傾 人	侵 耐 耐
生 土 土	土 土 土	の 風 乾	肥 定 塩	の 性 態 量	害 理 冠	斜 為	水 風
産 土 土	の 土 土	の 乾 粘 土	肥 定 塩	石 苦 加 燐	害 物 的 害 水	然 然 然	水 風
力 層 層	の 粘 土	水 水 潤	肥 定 塩	石 苦 加 燐	質 障 障	の 傾 方	水 風
可 層 層	の 粘 土	乾 乾	沃 基 状	豊 灰 土 里 酸 要	の 害 害	傾 方	水 風
能 厚 深	含 難 土 着 硬	乾 乾	沃 基 状	豊 灰 土 里 酸 要	の 害 害	傾 方	水 風
性 等 級	さ さ 量 易	性 性 度 湿	力 力 態 度	量 量 量 素 度	無 性 性	斜 向 斜	度 性 性
	t d g p	w	f	n	i	a	s e
	Ⅲ Ⅱ Ⅲ Ⅱ I 1 2 1	(Ⅱ) 1 3 (2)	Ⅱ 1 2 1	I 1 1 1 1 1 2	Ⅲ 1 3	I 1 1	I 1 -- I 1 1 1
簡 略 分 級 式 Ⅲ di Ⅱ tg(w) :							

A 土壤区の特徴

この土壤区は豊糠統に属する、表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層20cmで浅い、表土の土性は中粒質～粗粒質で耕起碎土は容易である、透水性大、保水性小で過乾となるおそれがある、保肥力大、固定力小、塩基状態良好で肥状度は高い、養肥分はいづれも多い、次層の礫層浅く障害となつているが災害性はない。

傾斜2～3°の扇状地で侵蝕のおそれは少ない。

B 植生及び利用状況 概ね畑となつている。

C 地力保全上の問題点

深耕して漸次表土の深化をはかり、有機物の施用を必要とする。

D 分 布 北海道沙流郡平取町豊糠の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

コ ウ ビ ラ 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ25cm前後で2%内外、土性はSL～Sである、色は10YRで明度3～4、彩度1～2、発達極めて弱度の粒状構造もしくは単粒状を呈する、ち密度は疎～中、pH(H<sub>2</sub>O)

5.5前後、下層との境界は平堆明瞭である(浮石混入)

第2層は概ね25cm以下で腐植を欠き、浮石の二次堆積層である。(U-C主)

代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町二風谷 試坑<sub>6</sub>83

第1層	0 ~ 24cm	腐植含む黒褐(10YR3/1)のS、極めて弱度の粒状構造もしくは単粒状、ち密度疎~中、pH(H <sub>2</sub> O)5.6、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第2層	24~	二次堆積した浮石層、調査時の湿り湿

代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫含量 %	粒径組成%				土性	現地容積重 g	真比重	全窒素 %	全窒素 %	炭素率 %	腐植 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~24	0.9		6.1.8	34.3	3.6	0.3	S			0.71	0.07	10.1	1.2

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基mg/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.6	4.6	0.6	3.9	1.0	0.4	0.1	25.6	26.01	7.8

A-2 他の土壌統との関係

本統に類似する土壌統はない。

A-3 母材 非固結火成岩(浮石)の水積物

A-4 堆積様式 水積(扇状堆土)

B 地形 段丘間の扇状地

C 気候 年平均気温6.7℃ 年降水量1016mm

D 植生及び利用状況 殆んど採草地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

有機物の施用、塩基の補給、磷酸の増施

F 分布 北海道沙流郡平取町二風谷の一部

調査及び記載責任者 宮脇 忠 (北海道立中央農業試験場)  
年 \_\_\_\_\_ 日 \_\_\_\_\_

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土壌区名	簡略分級式
コウピラーコウピラ	■fni■tw

② 土壌区別説明

コウピラ統-コウピラ区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾人	侵耐耐
生土	土の	のの乾	肥の	層換	の有性	害理的	冠す	斜為	水風
産の層	ののの	水水潤	肥定塩	のの性	態量	害物的	害水の	然の	蝕蝕
力の層	ののの	乾	沃	石苦加	磷	質障	のの	傾方	蝕蝕
可能厚	ののの	乾	基	灰土里	酸要	有害	危危	傾方	蝕蝕
性深	含難土	粘土着	状	豊含	量	無性	險險	斜向斜	蝕蝕
等級	ささ量	易	力力態	否	素度	性	度度	斜向斜	蝕蝕
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
	II I I I I 1 1 (2)	II 1 3 2	III 3 4 3	III 3 3 3 2 1 2	III 1 3	I I 1 1	II 1 - -	I 1 1 1	
簡略分級式 III f n i II t w									

A 土壤区の特徴

この土壤区はコウピラ統に属する、表土の厚さは25cm前後で中庸、有効土層1m以上で深い、表土の土性中粒質～粗粒質で耕起、砕土は容易、透水性大、保水性小で滲透水の影響で湿性を呈している。保肥力小、固定力大、塩基状態不良で肥決度は低い。養肥分はどれも少ない、次層以下末風化な浮石層で障害となつている。災害性は特でない。

B 植生及び利用状況 殆んど採草地、放牧地である。

C 地力保全上の問題点

有機物の施用を必要とし、かついづれの養分にも欠乏しているので肥料の増施は欠かすことが出来ない。

D 分 布 北海道沙流郡平取町二風谷の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

川 向 統

(1) 土壤統の概説

A 土壤統の特徴

A-1 断面の特徴

第1層は厚さ20cm前後で腐植含量3～5%、土性はSLを主とする。色は10YRで明度2～3、彩度1～2、発達弱度の塊状構造、ち密度13前後、pH(H<sub>2</sub>O)5.5前後、下層との境界は明瞭である。

第2層は厚さ10～15cmで腐植を欠く浮石層、色は10YRで明度6～7、彩度3～4、無構

造で単粒状、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(T a - b)

第3層は厚さ10cm前後で腐植を欠く浮石砂礫層、色は10YR~2.5Yで明度7~8彩度1~2、無構造で単粒状、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。(U-C)

第4層は厚さ10cm前後で腐植を欠き土性CLを主とする、色は10YR~2.5Yで明度5~6、彩度2~3、無構造で均質状を呈する、ち密度15前後で疎pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。(部分的に上部に薄層の泥炭が存在する)

第5層は厚さ30cm前後で腐植を欠き、半風化の円礫を含み、土性CLを主とする。色は10YRで明度7~8彩度2~3、無構造で均質状を呈する、脈状斑に頗る富み、点状斑を含む、ち密度20前後で中、pH(H<sub>2</sub>O)5前後、下層との境界は明瞭である。

第6層は厚さ20cm前後で腐植を欠く、土性はCL~Cである。色は2.5~5GYで明度5~7、彩度1、無構造で均質状を呈し中孔がある、点状斑を含む、ち密度は疎、下層との境界は明瞭である。

第7層は概ね110m以下で腐植を欠き、土性はCL~Cである、色は10Gで明度6~7、彩度1、無構造で均質状を呈する。ち密度は疎である。

### 代表的断面形態

(所在地) 沙流郡平取町川向、試坑84

第1層	0 ~ 20cm	腐植含む黒褐(10YR3/1)のSL、弱度の粒状構造、ち密度13で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.5前後、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第2層	20 ~ 34	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/4)の浮石層、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第3層	34 ~ 45	腐植欠く灰黄(2.5Y7/2)の浮石砂礫層、単粒状、ち密度疎、調査時の湿り半湿、層界明瞭
第4層	45 ~ 54	腐植欠く灰黄褐(10YR5/2)のLiC、均質状、ち密度15で疎、pH(H <sub>2</sub> O)5.0、調査時の湿り湿、層界明瞭
第5層	54 ~ 82	腐植欠く鈍黄橙(10YR7/3)の円礫含むCL、均質状、脈状斑頗る富み点状斑含む、ち密度19で中、pH(H <sub>2</sub> O)4.9、調査時の湿り湿層界明瞭
第6層	82 ~ 110	腐植欠く帯黄緑灰(2.5GY6/1)のCL(触感)、均質状、中孔あり、点状斑含む、ち密度疎、調査時の湿り湿、層界明瞭
第7層	110 ~	腐植欠く明緑灰(10G7/1)のCL(触感)、均質状、ち密度は疎、調査時の湿り湿

### 代表的断面の分析成績

層位	採取部位 cm	水分 %	礫重量 %	粒径組成 %				土性	現積地重容 g	真比重	全炭素 %	全窒素 %	炭素率	腐 値 %
				粗砂	細砂	シルト	粘土							
1	0~20	2.3		75.8	8.9	11.8	3.4	SL			1.99	0.18	11.0	3.3
2	45~54	6.6		14.1	16.9	32.1	36.9	LiC			1.94	0.19	10.4	3.2
3	54~82	5.8		15.4	25.1	37.7	21.9	CL						-

層位	pH		置換酸度 Y <sub>1</sub>	塩基置換容量 me/100g	置換性塩基 me/100g			石灰飽和度 %	磷酸吸収係数	有効態磷酸 mg/100g
	H <sub>2</sub> O	KCl			CaO	MgO	K <sub>2</sub> O			
1	5.4	4.5	1.9	7.6	4.0	0.1	0.2	52.6	2351	1.0
2	5.0	4.0	1.9	18.4	9.3	2.0	0.6	50.0	2110	1.5
3	4.9	3.7	4.4	15.4	5.8	2.6	0.3	37.7	2881	1.5

A-2 他の土壌統との関係

本統に隣接する土壌統としてはシラウ統、えり統があるがシラウ統は支笏ローム層、及び浮石層が下層に出現し、シリ統は礫層が存在し、かついずれも本統とは乾湿を異にしているのので区別される。

A-3 母材 非固結火成岩（火山砂礫）／固結水成岩

A-4 堆積様式 風積（火山性）／洪積

B 地形 標高50m前後の台地

C 気候 年平均気温6.7℃ 年降水量1016mm

D 植生及び利用状況 概ね畑地、採草地、放牧地である。

E 農業上の留意事項

排水の完備、有機物の施用、混層耕、塩基の補給

F 分布 北海道沙流郡平取町川向の一部

調査及び記載責任者 宮 脇 忠 （北海道立中央農業試験場）

年 月 日 昭和45年3月31日

(2) 土壌統の細分

① 土壌区一覧

土 壌 区 名	簡 略 分 級 式
川 向 - 川 向	III fn II twi

② 土壌区別説明

川 向 統 - 川 向 区

示 性 分 級 式 (畑)

土表有表耕	土	自	養	障	災	傾	侵		
壤	効土	地透保湿	然保固土	分置	有微酸	有物	増地	自傾入	侵耐耐
生土	耘表表表	ののの	層換	の有微酸	害理	冠す	斜為	水風	
産土	の土土の	の風の	のの性	態量	害物的	害水のり	然為	水風	
力の層	ののの	の水水潤	肥定塩	石苦加磷	質障	のの	の	蝕	
可能厚	ののの	粘土	基	灰土里酸要	の害	危危	傾方傾	蝕蝕	
性深	含難上着硬	乾	沃	豊	有	險險	斜向斜	蝕蝕	
等級	ささ量易	性性さ	性性度	力力態	量	無性	度度	度性性	
	t d g p	w	f	n	i	a	s	e	
III	II I I I 1 1 1	II 2 2 2	III 2 4 2	III 2 3 2 3 1 2	II 1 2	I 1 1	I 1 - -	I 1 1 1	
簡 略 分 級 式		III fn II twi							

### A 土壌区の特徴

この土壌区は川向統に属する、表土の厚さは20cm前後で中庸、有効土層1m以上で深い、表土の土性中粒質で耕起砕土は容易、透水性中、保水性中で上部斜面よりの滲透水の流入で湿性を呈している。

保肥力中～小、固定力大、塩基状態概して中で肥状態は低い、養分分では全般的に少なく特に苦土と磷酸に乏しい。

災害性は特にないが作土下に浮石層が存在し障害となっている。

B 植生及び利用状況 概ね畑地、採草地、放牧地である。

### C 地力保全上の問題点

暗渠工事の一部進められているが組織的に行なつて早期完了を期すこと、腐植が少ないので有機物を施用し、塩基類を増施すること、特に熔磷等苦土入り肥料の使用が望ましい、また作上下に浮石層が存在するので混層耕をする必要があるが、この場合も土改資材(石炭、熔磷)の投入が必要である。

D 分 布 北海道沙流郡平取町川向の一部

記載責任者 宮 脇 忠 (北海道立中央農業試験場)

日 付 昭和45年3月31日

## 3 保全対策地区区分及び説明

### (1) 保全対策地区の設定

土壌断面の特徴及び対策等を考慮して次の保全対策地区を設定した。

(水田)

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
平取保全対策地区	平 取 去 場	1065	腐植が少ない 磷酸、加里が少ない	有機物の施用 磷酸増施、加里の補給、健苗育成
苜蓿保全対策地区	苜 蓿 貫 気 別 ア ベ ッ ト ナ イ	179	湿性を呈する 腐植が少ない 磷酸、加里、苦土が少ない	組織的な排水工事の早期完了 有機物の施用 磷酸増施、塩基の補給 苦土入り肥料の使用、健苗育成

(畑)

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	主な特徴	重要な保全対策
シラウ保全対策地区	ニタツナイ シ ラ ウ 長 知 内 岩 知 志 シ リ 二 風 谷	680	火山灰の累積する火山性土 腐植が少ない 養分が不足気味である 台地、段丘上に分布し侵蝕を受けやすい	混層耕の実施 有機物の施用 磷酸増施、塩基の補給 侵蝕防止

保全対策地区名	該当土壌区	面積(ha)	在 在 特 徴	重 要 な 保 全 対 策
川向保全 対策地区	川 向	92	台地上の湿性地、腐植が 少ない 塩基(特に苦土)に乏しい、 作土下に浮石砂礫がある	組織的な排水工事の早期完了  有機物の施用 塩基の補給 苦土入り肥料の使用 混層耕
メム保全 対策地区	上貫気別 メ ム	1561	火山灰を補覆する扇状堆 土 腐植の少ないことがある 塩基に乏しい 土層に礫の出現すること がある	混層耕 有機物の施用 塩基の補給、苦土入り肥料の使用
豊糠保全 対策地区	紫雲古津 豊 糠 コウビラ	31	新しい扇状地である 下層に砂礫層がある 腐植が少ない 塩基(特に苦土)に乏しい 一部に湿地がある(コウ ビラ)	有機物の施用 塩基の補給、苦土入り肥料の使用

(2) 保全対策地区別説明

(水田)

<平取保全対策地区>

(1) 分布状況

郡市町村名	面積(ha)	備 考 ( 該 当 土 壌 区 )
沙流郡平取町	1065	平取、去場

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

排水良好な水田でいづれも表土は土性が粘質である。養分分では磷酸の少なめのところや加量の少ないところがあり一般に腐植の少ない土壌であるが生産性は高い。

② 営農の方向その他

安全確収に心がけること、健苗の育成、熟苗の使用などが重要である。

(3) 地方保全対策

① 地方保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積(ha)	実 施 方 法	対策資材及び機器具の種類、型式、数呈等
有機物施用 施肥の合理化  健 苗 育 成	全区 1065	堆厩肥、素ワラの秋鋤込み 磷酸、加里の増施 苦土入り肥料の使用 健苗育成技術の確立	指導の徹底



＜苜蓿保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
沙流郡平取町	179	苜蓿、貫気別、アベツ、トナイ

(2) 保全対策地区の特徴と地方保全上の問題

① 特徴と問題点

地下水や滲透水の影響が強く湿性を呈している、根系障害のおそれがあり、養肥分も一般に少ない、対策としては排水施設の完備が必要である。また磷酸、加里等の増施が望ましい。

② 営農の方向その他

安全確保につとめ、健苗育成や熟苗の使用により初期生育を良くすること。

(3) 地方保全対策

① 地方保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実 施 方 法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水施設完備 有機物施用 施肥の合理化	全区 179	組織的に早期完了を期す 堆厩肥、素ワラの秋鋤込み、 加里、磷酸の増施 苦土入り肥料の使用	工事費の助成 指導の徹底

＜シラウ保全対策地区＞

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備 考 (該 当 土 壤 区)
沙流郡平取町	680	ニタツナイ、シラウ、長知内、岩知志、シリ、二風谷

(2) 保全対策地区の特徴と地方保全上の問題点

① 特徴と問題点

種々の火山灰が累積する火山性で表土は概して腐植含量少なく、作土下に末風化の浮石礫層が10～30cmの層厚で存在し、かつ理鉛腐植層がある、表土の土性は粗く保肥力も小さい、対策としては混層耕を実施し、有機物、土改資材を投入すること、また養肥分にも不足気味で特に苦土は少ない。また地形が傾斜～緩傾斜で水蝕が見られ侵蝕防止策を構ずる必要がある。

② 営農の方向その他

主累経営を更に推進すること、施肥技術を合理化すること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
混層耕	全区 680	70cm前後まで混層	大型機械の導入、工事費の助成
有機物施用		土改資材の投入	熔磷、石灰など
施肥の合理化		堆厩肥など	指導の徹底
侵蝕防止		磷酸、加里の増施、苦土肥料の使用	"
		草地の拡大など	"

< 川向保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
沙流郡平取町	92	川向

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表層は火山性土で下層は洪積の堆積物よりなるが斜面上部からの滲透水の影響で湿性を呈している。保肥力は中～小で養分分は一般に少なく、特に苦土と磷酸に乏しい。対策としては排水施設を完全にし、有機物の施用と熔磷などの苦土入り肥料を使用することが必要である。また作土下に浮石砂礫層が存在するから、土改資材の投入をはかりながら混層耕をすること。

② 営農の方向その他

主畜経営を今後も推進すること。牧草に対する施肥技術を確立すること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
排水施設の完備	川向 92	組織的に早期完了を期す	工事費の助成
有機物施用		堆厩肥など	指導の徹底
施肥の合理化		特に苦土肥料の使用	"
混層耕		70cm前後まで混層	工事費の助成、大型機械導入

< メム保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
沙流郡平取町	1561	上貫気別 メム

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

表層に土性の粗い火山性土が被覆する扇状堆土である。表土の保肥力が小さく、養分にも不足している。対策としては作土下に浮石層があるので混層耕を実施し、土改資材の投入を要する。磷酸、加里の増施も大切で特に燐燐など苦土入り肥料を使用する。

② 営農の方向その他

家畜の導入を進めて主畜化をはかること。合理的な施肥技術を確立すること。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
混層耕 有機物施用 施肥の合理化	全区 1561	70cm前後まで混層 堆肥など 加里、磷酸の増施、苦土入り肥料の使用	大型機械の導入、工事費の助成 指導の徹底 "

< 豊糠保全対策地区 >

(1) 分布状況

郡市町村名	面積 (ha)	備考 (該当土壌区)
沙流郡平取町	31	紫雲古津、豊糠、コウビラ

(2) 保全対策地区の特徴と地力保全上の問題点

① 特徴と問題点

いずれも堆積の新しい扇状堆土である。砂岩・頁岩等を母材とするものや、浮石砂礫の二次堆積物を母材とするもので後者は滲透水の影響で湿地となつているが面積的に少ない。一般に作土が浅いので深耕すること。また有機物を施用し、磷酸増施や塩基の補給につとめること、特に苦土入り肥料の使用が必要である。

② 営農の方向その他

家畜の導入を推進し、主畜化をはかること。合理的な施肥対策を確立する。

(3) 地力保全対策

① 地力保全対策

対策の種類	対象地及び対象面積 (ha)	実施方法	対策資材及び機械器具の種類、型式、数量等
深耕 有機物施用 施肥の合理化	全区 31	有機物施用とともに漸次深耕 堆肥など 磷酸、加里の増施、苦土入り肥料の使用	指導の徹底 " "

(2)土壤分析成績(水田)

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 ( 層 位 )	深 さ  cm	理 学 性													
					風乾細土中			細土無機物中					土 性	現地における100cc容中				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ル ト %	粘 土 %	容 積 重 g		真 比 重	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
平 取 保 全 策 取 地 区	2	1	0~14	2.6	2.1	11.0	49.3	60.3	23.4	16.3	CL	-	-	-	-	-		
		2	14~25	3.4	2.4	15.6	30.5	46.1	36.6	17.2	CL	-	-	-	-	-		
	3	1	0~13	1.9	2.1	54.4	14.8	69.2	17.3	13.6	SL	-	-	-	-	-		
		2	13~33	0.7	0.9	87.9	4.6	92.5	5.1	2.3	S	-	-	-	-	-		
	5	3	36~	4.2	-	0.3	16.8	17.1	44.0	38.9	LiC	-	-	-	-	-		
		1	0~16	3.2	2.7	3.3	48.6	51.9	28.0	20.1	CL	-	-	-	-	-		
	6	2	16~35	3.1	1.8	3.0	58.2	61.2	24.7	14.1	L	-	-	-	-	-		
		3	35~85	3.0	-	0.8	53.4	54.2	29.5	16.3	CL	-	-	-	-	-		
		1	0~16	1.3	1.4	19.7	52.4	72.1	16.4	11.4	SL	-	-	-	-	-		
	10	2	16~40	2.2	1.2	9.5	67.4	76.9	13.9	9.1	SL	-	-	-	-	-		
		3	40~86	3.1	1.8	0.9	47.3	48.2	35.5	16.2	CL	-	-	-	-	-		
		1	0~19	3.6	3.0	3.6	52.6	56.2	23.0	20.8	CL	-	-	-	-	-		
	13	2	19~41	3.0	-	1.3	70.8	72.1	21.0	6.9	SL	-	-	-	-	-		
		1	0~12	3.8	1.7	20.9	38.6	59.5	23.6	17.1	CL	-	-	-	-	-		
		2	12~20	2.5	-	27.8	40.3	68.1	20.6	11.3	SL	-	-	-	-	-		
	30	3	20~36	2.3	1.5	26.8	43.2	70.0	20.0	10.0	SL	-	-	-	-	-		
		1	0~10	1.8	2.7	9.7	58.5	68.2	18.9	12.9	SL	-	-	-	-	-		
	36	2	10~23	2.1	2.0	12.7	40.4	53.1	27.9	19.0	CL	-	-	-	-	-		
		1	0~12	1.4	1.8	60.8	12.6	73.4	11.6	15.1	SCL	-	-	-	-	-		
		2	12~18	1.7	1.7	55.4	14.1	69.5	18.2	12.3	SL	-	-	-	-	-		
1		0~16	2.8	2.2	22.8	49.6	72.4	14.7	12.9	SL	-	-	-	-	-			
89	2	16~39	3.4	2.7	8.6	52.6	61.2	24.2	14.6	L	-	-	-	-	-			
	1	0~14	2.6	1.7	39.0	36.3	75.3	12.9	11.8	SL	-	-	-	-	-			
94	2	14~24	2.5	2.3	39.5	33.8	73.3	14.6	12.1	SL	-	-	-	-	-			
	1	0~19	2.8	3.7	31.0	22.8	53.8	28.8	17.3	SiCL	-	-	-	-	-			
	2	19~35	3.3	3.6	3.3	27.7	31.0	34.4	34.6	LiC	-	-	-	-	-			
	3	35~	5.7	-	0.3	24.3	24.6	39.8	35.6	LiC	-	-	-	-	-			
19	1	0~11	3.0	2.4	20.6	23.9	44.5	32.0	23.5	CL	-	-	-	-	-			
	2	11~52	3.6	2.4	7.3	23.2	30.5	37.7	31.8	LiC	-	-	-	-	-			
荷	4	1	0~10	2.1	3.4	48.1	17.1	65.2	20.2	14.6	SL	-	-	-	-	-		
		2	43~78	3.9	1.1	1.2	31.5	32.7	41.8	25.5	LiC	-	-	-	-	-		

化 学 性																	
pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 100g 中			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸收 係數	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>3</sub> -N 發生量 mg/100g		有效 態磷 酸 100g	有效 態珪 酸 mg/ 100g	遊離 酸化 鐵 %
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg				乾土	濕土			
4.9	4.0	2.5	1.23	0.11	11.7	14.7	205.4	74.0	11.7	76.2	555	—	7.2	—	5.6	—	0.79
5.4	4.5	1.9	1.45	0.12	12.6	18.9	332.4	104.2	20.1	92.1	582	—	3.6	—	7.9	—	0.93
5.4	4.5	1.9	1.29	0.10	13.0	11.0	211.0	23.7	9.0	80.9	395	—	7.1	—	8.5	—	0.52
5.6	4.8	1.3	0.50	0.02	24.0	4.2	70.3	10.9	3.6	73.8	395	—	0.8	—	7.2	—	0.58
5.6	4.4	1.9	—	—	—	23.9	412.4	138.9	36.9	93.7	925	—	—	—	3.2	—	1.14
4.9	4.0	2.5	1.62	0.11	14.5	17.8	219.6	111.2	12.8	76.4	884	—	9.4	—	4.4	—	0.93
6.0	5.0	1.3	1.06	0.07	16.1	17.6	243.0	157.4	10.9	94.9	809	—	4.3	—	7.4	—	1.00
5.9	4.8	1.3	—	—	—	18.4	228.6	182.8	20.8	95.6	779	—	—	—	6.2	—	0.93
5.2	4.1	1.9	0.84	0.06	15.2	13.1	220.2	62.8	12.6	85.5	656	—	2.8	—	4.2	—	1.04
5.5	4.5	1.3	0.71	0.07	10.7	12.8	232.7	67.3	14.4	93.0	591	—	0.7	—	4.9	—	0.66
5.8	4.5	1.3	1.09	0.10	11.3	19.1	331.5	95.2	17.3	88.5	867	—	—	—	4.4	—	1.13
5.4	4.3	2.5	1.79	0.14	13.1	18.7	250.1	124.5	19.3	82.9	606	—	7.3	—	7.4	—	0.93
6.0	4.8	1.9	—	—	—	15.4	241.5	107.0	19.2	92.9	602	—	2.0	—	6.5	—	0.86
5.2	4.1	2.5	1.03	0.09	12.0	15.8	261.3	112.6	15.1	96.2	774	—	2.9	—	7.9	—	0.94
5.8	4.6	1.3	—	—	—	13.5	226.3	77.1	12.3	90.4	599	—	2.4	—	10.7	—	0.78
6.0	4.8	1.3	0.87	0.08	10.7	13.2	243.5	68.2	16.7	93.9	512	—	—	—	8.4	—	0.66
5.4	4.4	1.9	1.62	0.14	11.5	16.9	378.5	37.9	9.8	92.3	169	—	8.6	—	7.0	—	0.92
5.9	5.1	1.3	1.17	0.09	13.2	16.3	348.0	57.8	9.8	95.1	768	—	2.9	—	6.5	—	0.92
5.2	4.2	2.5	1.08	0.09	11.5	10.9	183.3	18.9	8.6	69.7	410	—	5.0	—	4.2	—	0.85
5.7	4.7	1.7	1.02	0.09	11.5	13.3	249.0	19.7	11.6	75.9	594	—	3.8	—	5.0	—	0.92
6.1	5.0	0.6	1.32	0.09	14.6	14.0	227.7	58.9	10.0	80.0	858	—	2.2	—	2.7	—	1.25
6.6	5.7	0.5	1.62	0.13	12.3	16.8	385.8	37.1	12.0	94.0	907	—	1.9	—	4.7	—	1.40
6.8	5.5	0.3	1.01	0.09	11.2	14.4	201.9	72.6	10.6	76.4	672	—	0.0	—	5.1	—	1.20
6.8	5.6	0.1	1.37	0.09	15.2	14.5	258.0	87.5	8.6	94.5	1,157	—	2.2	—	4.4	—	1.20
5.0	4.0	3.1	2.23	0.18	12.2	14.1	232.8	35.9	8.2	73.0	807	—	9.4	—	10.8	—	0.67
5.8	4.7	1.9	2.17	0.19	11.3	27.1	505.8	153.0	13.6	95.6	1,044	—	5.4	—	7.9	—	1.33
6.0	4.7	1.9	—	—	—	25.0	445.0	148.3	21.3	94.8	1,015	—	—	—	7.7	—	1.16
5.4	4.3	1.3	1.45	0.14	10.7	17.1	260.1	114.8	21.8	90.6	689	—	7.2	—	7.8	—	0.70
5.6	4.5	1.3	1.45	0.15	9.6	14.2	224.6	93.6	12.7	90.8	927	—	3.9	—	5.2	—	1.00
5.0	4.2	1.9	2.07	0.19	11.0	12.8	198.6	37.2	9.0	71.1	566	—	9.3	—	10.0	—	0.59
5.1	3.8	3.8	0.67	0.09	7.8	20.8	311.4	128.1	20.2	86.1	874	—	0.7	—	3.5	—	1.07

## (2)土壤分析成績(水田)

保 全 対 策 区	土 壤 区 号	地 層 序 ( 層 位 )	深 さ cm	理 学 性													
				風乾細土中		細土無機物中					土 性	現地における100cc容中					
				水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	真 比 重	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	空 気 容 積 cc	孔 隙 率 %
荷 菜 保 全 対 策 地 区	菜	7	1	0 ~ 15	2.0	3.7	47.6	24.4	72.0	16.6	11.4	SL	-	-	-	-	-
		2	30 ~ 45	1.3	-	94.5	4.2	98.7	0.5	0.8	S	-	-	-	-	-	
		3	45 ~ 57	0.9	-	89.9	3.8	93.7	5.0	1.3	S	-	-	-	-	-	
		4	57 ~ 71	6.4	-	3.2	7.1	10.3	40.7	49.1	HC	-	-	-	-	-	
	貫 気 別	38	1	0 ~ 15	1.8	1.1	30.5	33.0	63.5	21.8	14.7	L	-	-	-	-	-
		2	15 ~ 33	2.1	-	11.0	49.2	60.2	23.6	16.2	CL	-	-	-	-	-	
	ア ベ ッ	22	1	0 ~ 20	3.5	3.6	17.0	29.3	46.3	32.1	21.5	CL	-	-	-	-	-
			2	20 ~ 50	2.9	1.4	10.1	55.8	65.9	22.6	11.5	SL	-	-	-	-	-
			3	50 ~	4.8	-	6.6	15.7	22.3	55.8	22.0	SiCL	-	-	-	-	-
		26	1	0 ~ 23	2.4	8.2	45.3	22.9	68.2	19.8	12.0	SL	-	-	-	-	-
			1	0 ~ 23	2.6	0.9	65.5	18.0	83.5	11.3	5.2	SL	-	-	-	-	-
			2	23 ~ 36	2.9	-	8.8	36.1	44.9	32.9	22.1	CL	-	-	-	-	-
	34	1	0 ~ 16	2.9	3.9	43.5	12.6	56.1	19.5	24.4	SCL	-	-	-	-	-	
	ト ナ イ	33	1	0 ~ 22	2.2	1.9	22.6	44.8	67.4	17.6	15.0	SL	-	-	-	-	-
			2	22 ~ 51	1.9	2.4	21.4	48.5	69.9	18.6	11.6	SL	-	-	-	-	-

化 学 性

pH		置 換 酸 度 %	有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 <sup>100g</sup> 中			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸收 係数	乾 土 効 果	30℃ NH <sub>2</sub> -N 發生量		有効 態磷 酸 mg/ 100g	有効 態珪 酸 mg/ 100g	遊離 酸化 鉄 %
H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg				乾土	湿土			
4.8	4.0		3.1	2.23	0.19		11.9	11.8	138.8				41.1	9.8			
5.5	4.7	1.3	—	—	—	1.7	23.2	9.4	4.5	82.3	186	—	0.7	—	9.3	—	0.26
5.3	4.4	1.9	—	—	—	5.0	48.4	20.4	5.2	56.0	420	—	—	—	7.3	—	0.45
5.2	3.9	2.5	—	—	—	30.1	285.7	169.1	42.6	88.4	1,245	—	—	—	4.7	—	1.34
5.2	4.2	2.5	0.67	0.07	9.3	13.7	255.0	40.2	10.8	66.4	723	—	7.9	—	4.6	—	1.14
5.1	4.1	2.5	—	—	—	18.5	283.8	56.9	9.8	54.5	768	—	7.9	—	3.8	—	1.18
5.1	4.1	1.9	2.15	0.19	11.5	14.0	215.8	72.3	14.4	82.9	883	—	10.0	—	4.4	—	0.80
5.1	3.9	2.5	0.86	0.08	11.0	12.9	291.7	23.7	41.2	96.9	602	—	1.2	—	5.6	—	0.75
5.1	3.9	2.5	—	—	—	14.2	275.8	45.3	24.4	88.0	1,121	—	—	—	6.3	—	1.08
4.8	3.9	3.8	4.90	0.42	11.6	18.5	249.8	39.3	25.5	61.0	795	—	17.9	—	11.4	—	1.19
5.3	4.2	2.5	0.54	0.06	9.4	23.8	416.1	73.9	53.7	82.3	347	—	0.4	—	7.4	—	0.33
5.1	3.9	3.1	—	—	—	21.1	167.5	28.6	14.4	36.5	921	—	1.4	—	3.3	—	0.53
4.7	3.7	5.6	2.37	0.18	13.0	19.4	250.8	49.5	18.1	60.8	911	—	10.8	—	3.0	—	1.12
4.6	3.6	8.8	1.13	0.11	10.3	13.0	181.2	21.3	15.3	60.8	597	—	5.7	—	6.3	—	0.65
5.7	4.4	1.9	1.45	0.11	12.7	13.1	263.4	49.7	18.9	93.9	565	—	2.1	—	3.4	—	0.72

(2)土壌分析成績(畑)

保 全 対 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 ( 層 位 )	深 さ  cm	理 学 性												
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における100				
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 g	真 比 重	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc	
シ ラ ウ	ニ タ ツ ナ イ	70	1	0~18	1.9	3.4	66.1	12.6	78.7	12.3	8.9	SL	-	-	-	-	
			2	18~55	6.0	-	4.4	29.6	34.0	31.8	34.2	LiC	-	-	-	-	
		80	1	0~13	2.0	4.3	79.1	6.9	86.0	10.9	3.1	LS	-	-	-	-	
			2	40~70	7.3	4.1	14.4	41.7	56.1	31.6	12.3	L	-	-	-	-	
	50	シ ラ ウ	1	0~22	1.4	2.4	77.5	12.9	90.4	7.9	2.5	LS	119	-	-	-	
			2	32~46	12.3	17.7	10.8	36.9	47.7	37.9	14.3	L	102	-	-	-	
			3	46~57	10.6	10.8	20.6	44.6	65.2	29.6	5.1	SL	104	-	-	-	
			4	57~70	16.1	13.5	21.4	43.5	64.9	31.2	3.8	L	95	-	-	-	
			5	70~87	12.5	9.2	19.6	35.6	55.2	41.6	3.1	L	108	-	-	-	
	81	1	0~28	2.8	3.1	77.5	7.2	84.7	10.0	5.2	SL	-	-	-	-		
		2	28~49	10.4	8.1	21.9	35.4	57.3	33.7	9.1	L	-	-	-	-		
	59	長 知 内	1	0~12	1.1	2.0	83.5	8.7	92.2	5.6	2.1	S	-	-	-	-	
			2	38~59	8.4	6.7	20.0	30.5	50.5	41.6	7.8	L	-	-	-	-	
			3	59~73	10.0	7.4	22.0	43.7	65.7	30.6	3.8	SL	-	-	-	-	
	76	岩 知 志	76	1	0~20	2.2	4.8	75.6	14.1	89.7	8.1	2.2	LS	-	-	-	-
				2	37~63	4.3	3.8	74.9	10.6	85.5	12.0	2.5	SL	-	-	-	-
			95B	1	0~16	1.3	7.3	85.3	6.4	91.7	4.1	4.3	LS	-	-	-	-
				2	22~35	7.1	20.2	38.6	20.1	58.7	20.8	20.5	CL	-	-	-	-
3				35~47	5.7	9.2	60.1	20.1	80.2	14.2	5.6	SL	-	-	-	-	
47	4	47~70	12.7	18.9	19.7	49.3	69.0	20.5	10.5	SL	-	-	-	-			
	5	85~115	6.0	8.4	39.8	37.4	77.2	17.8	5.0	SL	-	-	-	-			
	1	0~13	1.0	3.1	86.7	6.5	93.2	4.9	1.8	S	-	-	-	-			
82	シ リ	2	32~42	7.7	10.4	25.5	24.7	50.2	38.5	11.2	L	-	-	-	-		
		3	42~64	8.0	9.5	24.2	44.9	69.1	23.1	7.8	SL	-	-	-	-		
		1	0~19	1.7	3.3	81.8	6.9	88.7	8.7	2.7	LS	-	-	-	-		
82	二 風 谷	2	29~37	6.7	13.6	24.2	24.0	48.2	37.1	14.8	L	-	-	-	-		
		3	37~76	6.6	-	26.2	34.1	60.3	33.2	6.4	L	-	-	-	-		
川 向	川 向	84	1	0~20	2.3	3.3	75.8	8.9	84.7	11.8	3.4	SL	-	-	-	-	
			2	45~54	6.6	3.2	14.1	16.9	31.0	32.1	36.9	LiC	-	-	-	-	
			3	54~82	5.8	-	15.4	25.1	40.5	37.7	21.9	CL	-	-	-	-	
55		1	0~20	2.5	5.5	64.0	13.6	77.6	17.5	4.8	SL	-	-	-	-		



cc容中 空氣容積 cc		化 学 性												
		pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 <sup>100g</sup> 中			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸收 係數	有效 態磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg			
—	—	5.9	5.0	1.9	2.05	0.15	14.0	11.0	256.5	11.8	19.4	82.7	668	7.2
—	—	4.8	3.8	16.3	—	—	—	24.7	306.8	46.8	60.6	44.1	1,424	4.4
—	—	5.4	4.7	1.9	2.59	0.20	12.9	10.9	186.7	13.1	18.8	61.5	2,377	17.0
—	—	5.0	4.1	5.0	2.48	0.23	11.0	23.5	208.7	4.6	12.9	31.5	1,170	11.7
—	—	5.8	4.9	1.3	1.45	0.11	13.4	7.4	164.7	3.5	16.0	79.7	351	11.7
—	—	5.8	4.7	1.3	10.61	0.45	23.4	42.6	778.6	32.2	27.7	65.3	2,419	1.5
—	—	5.1	4.3	2.5	6.48	0.37	17.5	25.3	183.5	9.4	5.3	25.7	2,504	6.0
—	—	5.2	4.3	1.9	8.10	0.50	16.1	35.5	224.4	10.8	4.4	22.5	2,754	4.6
—	—	5.2	4.5	1.3	5.53	0.37	15.1	26.4	119.7	11.4	7.4	16.3	2,647	0.7
—	—	5.9	5.1	0.6	1.83	0.18	10.4	10.4	246.9	5.5	13.4	84.6	2,112	18.6
—	—	5.4	4.6	2.5	4.85	0.49	9.7	27.8	270.2	6.8	10.2	34.5	850	5.7
—	—	5.5	4.6	1.3	1.17	0.07	17.8	5.6	83.3	3.1	3.8	53.6	315	9.1
—	—	5.3	4.4	1.3	4.02	0.30	13.5	20.7	285.2	4.2	34.9	49.3	2,322	3.9
—	—	5.2	4.5	1.3	4.41	0.33	13.6	20.8	219.0	6.8	36.7	37.5	2,271	5.2
—	—	5.8	4.6	1.3	2.87	0.19	15.3	7.9	71.3	2.8	7.1	31.6	670	7.5
—	—	5.4	4.8	1.3	2.26	0.19	11.8	7.6	56.1	1.6	3.3	26.3	1,095	4.6
—	—	5.8	5.0	1.5	4.29	0.24	17.8	11.6	179.5	16.1	28.3	45.2	451	4.6
—	—	5.5	4.8	5.2	11.88	0.84	14.1	36.6	423.4	48.4	42.4	41.3	1,693	6.7
—	—	5.5	5.0	2.2	5.40	0.41	13.2	15.9	84.1	22.2	14.1	18.9	1,286	4.3
—	—	5.4	4.9	3.0	11.11	0.80	13.9	40.2	213.1	46.4	14.1	18.9	2,169	4.1
—	—	5.9	5.3	0.4	4.94	0.38	13.0	27.8	56.1	24.2	4.7	7.2	1,564	3.0
—	—	5.9	5.1	2.5	1.84	0.16	11.2	5.7	131.7	9.1	8.1	82.5	477	8.1
—	—	5.7	4.8	2.5	6.26	0.40	15.8	35.4	742.9	24.2	21.5	74.9	1,806	1.2
—	—	5.7	4.8	1.9	5.70	0.40	14.2	30.8	649.8	37.7	27.9	75.3	2,041	1.2
—	—	6.3	5.8	1.9	1.99	0.16	12.4	9.1	382.1	7.4	7.9	149.4	2,213	11.7
—	—	5.2	4.5	1.3	8.19	0.56	14.6	39.7	480.9	19.8	68.1	43.1	1,162	2.5
—	—	5.3	4.4	1.9	—	—	—	15.0	108.5	5.8	44.3	26.0	1,117	3.0
—	—	5.4	4.5	1.9	1.99	0.18	11.0	7.6	113.5	1.9	8.6	52.6	2,351	1.0
—	—	5.0	4.0	1.9	1.94	0.19	10.4	18.4	261.0	41.4	29.6	50.5	2,110	1.5
—	—	4.9	3.7	4.4	—	—	—	15.4	162.2	52.5	15.6	37.7	2,281	1.5
—	—	5.9	5.3	1.9	3.30	0.24	13.6	19.2	460.4	12.0	18.0	85.4	689	50.5

(2)土壤分析成績(畑)

保 全 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 ( 層 位 )	深 さ  cm	理 学 性													
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における					
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シ ルト %	粘 土 %		容 積 重 %	真 比 重	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc		
メ	上 貫 気 別	65	2	29 ~	5.3	6.0	31.0	26.5	57.5	31.6	10.9	L	-	-	-	-		
			1	0 ~ 26	2.9	4.7	46.6	24.0	70.6	14.2	15.2	SCL	-	-	-	-		
			2	26 ~ 54	3.9	1.0	16.5	44.1	60.6	20.3	19.0	CL	-	-	-	-		
		71	1	0 ~ 13	2.3	3.8	63.8	8.8	72.6	15.6	11.9	SL	-	-	-	-		
			2	29 ~ 40	5.8	4.2	8.3	29.8	38.1	42.6	19.4	CL	-	-	-	-		
		72	3	40 ~	6.2	-	2.9	12.7	15.6	51.5	32.9	SiC	-	-	-	-		
			1	0 ~ 25	3.9	5.2	20.7	25.4	46.1	44.9	9.0	L	-	-	-	-		
			1	0 ~ 20	1.4	3.6	83.2	8.3	91.5	6.0	2.5	S	-	-	-	-		
		73	2	30 ~ 56	7.8	9.7	52.2	11.3	63.5	19.9	16.6	SCL	-	-	-	-		
			1	0 ~ 20	1.4	3.3	84.6	7.7	92.3	6.6	1.0	S	-	-	-	-		
		79	2	30 ~ 42	8.6	9.3	19.5	18.1	37.6	37.0	25.3	LiC	-	-	-	-		
			3	42 ~	9.0	4.8	13.8	36.8	50.6	38.7	10.7	L	-	-	-	-		
		メ	メ	44	1	0 ~ 19	1.7	4.3	78.3	10.8	89.1	7.7	3.2	LS	-	-	-	-
					2	46 ~ 54	7.2	11.0	23.5	27.1	50.6	34.2	15.2	CL	-	-	-	-
					3	54 ~ 69	9.0	8.3	0.5	45.7	46.2	39.3	14.5	L	-	-	-	-
46	1			0 ~ 12	0.8	2.2	87.3	6.6	93.9	3.5	2.6	S	-	-	-	-		
	2			25 ~ 63	4.9	3.0	16.7	31.6	48.3	29.6	22.1	CL	-	-	-	-		
53	1			0 ~ 21	1.2	3.9	85.9	6.3	92.2	5.6	2.1	S	-	-	-	-		
	2			36 ~ 46	7.2	9.4	22.2	33.3	55.5	22.4	22.1	CL	-	-	-	-		
	3			46 ~ 59	9.6	7.2	17.1	46.0	63.1	29.2	7.7	L	-	-	-	-		
58	4			59 ~ 74	7.1	3.4	24.2	32.9	57.1	33.5	9.5	L	-	-	-	-		
	1			0 ~ 23	1.1	2.8	84.7	8.1	92.8	5.5	1.7	S	-	-	-	-		
60	2			40 ~ 70	14.6	19.1	15.0	43.7	58.7	30.7	10.6	L	-	-	-	-		
	1			0 ~ 32	2.5	4.3	72.4	10.3	82.7	10.0	7.3	SL	-	-	-	-		
63	1			0 ~ 23	1.1	2.9	89.4	5.9	95.4	2.4	3.4	LS	-	-	-	-		
	2			43 ~ 89	10.4	10.8	21.0	39.4	60.4	32.3	7.3	S	-	-	-	-		
66	1			0 ~ 23	3.0	2.1	43.3	30.3	73.6	14.0	12.4	SL	-	-	-	-		
	1	0 ~ 16	2.4	4.8	32.2	19.9	52.1	25.4	22.5	LS	-	-	-	-				
77	1	0 ~ 17	0.8	0.8	86.8	7.5	94.3	5.3	0.4	S	-	-	-	-				
	2	21 ~ 46	4.9	3.7	13.7	21.9	35.6	36.6	27.9	LiC	-	-	-	-				
	3	46 ~ 65	3.0	-	9.9	32.4	42.3	24.3	33.3	LiC	-	-	-	-				

100cc 容中 空氣容積 cc		化 学 性												
		pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100g	置換性塩基 100 g 中			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸收 係數	有効 態磷 酸 mg/ 100g
		H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg			
—	—	5.6	4.6	0.6	3.57	0.34	10.5	23.2	422.8	14.6	50.1	65.1	1,377	24.6
—	—	5.0	4.1	3.1	2.80	0.23	12.2	18.6	310.8	75.0	69.6	59.7	579	58.0
—	—	5.7	4.7	1.9	0.46	0.07	8.8	18.4	310.2	122.4	59.4	60.3	700	21.3
—	—	6.3	5.5	1.3	2.26	0.14	16.0	14.0	367.1	28.8	12.1	93.6	483	15.3
—	—	5.5	4.5	1.3	2.53	0.24	10.7	19.6	432.1	14.0	25.2	78.6	1,317	4.4
—	—	4.9	3.8	5.0	—	—	—	27.4	631.8	45.2	29.5	82.1	972	4.1
—	—	6.6	5.9	1.3	3.12	0.28	11.3	29.9	1,002.2	34.4	20.2	119.4	789	13.0
—	—	5.7	4.9	1.3	2.15	0.18	12.2	8.2	156.6	1.9	3.6	68.3	377	9.4
—	—	5.6	4.6	1.3	5.82	0.51	11.4	22.0	362.5	5.0	20.0	58.6	1,842	10.6
—	—	5.4	4.4	2.5	1.99	0.12	16.3	4.8	56.9	3.9	10.3	41.7	2,488	15.0
—	—	5.0	4.0	2.5	5.60	0.50	11.2	29.5	248.5	17.7	68.4	30.2	1,352	4.1
—	—	4.8	4.1	3.1	2.85	0.31	9.3	24.3	135.9	13.5	42.9	19.7	945	6.5
—	—	5.6	4.8	1.9	2.59	0.22	11.8	10.2	258.3	4.7	15.5	90.2	397	50.2
—	—	5.7	4.9	1.3	6.62	0.48	13.8	30.1	700.2	49.8	59.2	83.1	1,673	6.0
—	—	5.6	4.9	1.3	5.01	0.45	11.0	28.3	477.5	39.7	93.5	60.1	2,051	2.0
—	—	5.2	4.3	1.3	1.35	0.10	12.9	5.2	73.7	4.6	3.8	50.0	230	32.1
—	—	5.1	4.1	6.3	1.78	0.15	12.2	19.8	254.4	28.4	55.0	46.0	1,020	3.4
—	—	5.5	4.8	1.3	2.35	0.19	12.7	8.4	156.0	6.1	3.0	66.7	376	5.1
—	—	5.4	4.5	1.9	5.64	0.50	11.2	27.0	406.0	15.7	33.7	53.7	1,841	2.4
—	—	5.4	4.4	1.9	4.30	0.34	12.7	25.5	298.4	22.9	29.1	41.6	2,121	1.8
—	—	5.5	4.4	1.9	2.01	0.19	10.9	19.2	189.9	29.0	35.8	35.4	1,577	1.5
—	—	5.2	4.2	1.3	1.68	0.13	12.7	6.8	89.1	2.3	9.7	47.1	222	44.5
—	—	5.1	4.2	1.9	11.45	0.82	13.9	48.1	516.5	52.4	42.6	38.2	2,658	3.6
—	—	4.4	3.8	5.0	2.59	0.23	11.2	8.3	17.6	2.4	5.9	7.2	415	13.0
—	—	5.3	4.7	0.6	1.72	0.14	12.1	6.1	137.6	5.9	10.5	80.3	186	40.8
—	—	5.8	4.4	1.9	6.46	0.46	14.1	32.1	245.0	16.2	193.4	27.1	364	8.5
—	—	5.0	4.1	1.9	1.24	0.15	8.2	13.5	276.9	25.5	37.3	73.3	614	11.0
—	—	5.7	4.8	0.6	2.91	0.23	12.5	10.8	236.6	8.7	8.8	77.8	681	11.2
—	—	6.0	5.2	1.3	0.49	0.05	9.9	3.3	71.5	3.5	6.0	75.8	165	27.0
—	—	4.8	3.7	7.5	2.21	0.22	10.0	17.2	136.8	13.0	31.0	28.5	1,052	7.0
—	—	4.8	3.8	10.0	—	—	—	12.7	129.6	17.6	13.4	36.2	623	3.9

(2)土壤分析成績(畑)

保 全 对 策 区	土 壤 区	地 点 番 号	層 序 (層 位)	深 さ cm	理 学 性											
					風乾細土中		細 土 無 機 物 中					土 性	現地における			
					水 分 %	腐 植 %	粗 砂 %	細 砂 %	砂 合 計 %	シル ト %	粘 土 %		容 積 重 %	真 比 重	固 相 容 積 cc	水 分 容 積 cc
豊 古 津	21	1	0 ~ 28	1.6	1.4	40.7	25.0	65.7	19.0	15.3	SCL	-	-	-	-	
		2	28 ~ 41	2.6	-	21.7	32.6	54.3	33.6	12.1	L	-	-	-	-	
	56	1	0 ~ 23	2.2	1.8	47.9	34.8	82.7	10.7	6.6	SL	-	-	-	-	
		2	23 ~ 37	1.5	1.3	72.4	21.6	94.0	2.5	3.4	LS	-	-	-	-	
豊 糖	69	1	0 ~ 20	3.6	2.0	76.9	11.7	88.6	7.5	3.9	S	-	-	-	-	
糖	コウ ヒラ	83	1	0 ~ 24	0.9	1.2	61.8	34.3	96.1	3.6	0.3	S	-	-	-	-

		化 学 性												
100cc 容中		pH		置 換 酸 度 Y <sub>1</sub>	有 機 物			塩基 置換 容量 me/ 100 g	置換性塩基 100 g 中			石灰 飽和 度 %	磷酸 吸收 係数	有効 態磷 酸 mg/ 100g
空 氣 容 積 cc	孔 隙 率 %	H <sub>2</sub> O	KCl		T-C %	T-N %	C/N		CaO mg	MgO mg	K <sub>2</sub> O mg			
		—	—	5.8	5.0	1.9	0.86	0.07	11.8	19.5	444.2	20.0	19.2	88.2
—	—	5.8	4.5	1.9	—	—	—	22.4	413.7	93.1	32.9	89.2	563	8.6
—	—	5.9	4.9	1.9	1.06	0.12	19.1	12.6	309.9	7.9	45.8	87.3	72	60.4
—	—	5.6	4.6	1.9	0.78	0.08	10.2	7.9	182.3	17.7	19.3	82.3	238	14.8
—	—	5.4	4.3	1.3	1.19	0.17	6.9	20.7	437.3	40.9	29.6	75.4	736	28.5
—	—	5.6	4.6	0.6	0.71	0.07	10.1	3.9	28.9	8.2	7.1	25.6	2 601	7.8